令　和　元　年　度
内 閣 府 委 託 調 査

地域における理工系女性人材育成事業の効果的な実施方法に関する調査研究

調査報告書

令和2年3月

株式会社リベルタス・コンサルティング

目次

第１章 調査概要 1
1－1 調査目的 1
1－2 調査手法 1
1－2－1 イベントプログラムの企画 1
1－2－2 プログラム 3
1－2－3 アンケートの実施 3
1－3 地方公共団体（開催地）の選定 3
1－3－1 選定基準 4
1－3－2 選定にあたっての留意事項 4
1－3－3 募集・採択 4
第２章 イベントの実施結果 6
2－1 各会場の開催内容 6
2－1－1 青森県弘前市 6
2－1－2 群馬県桐生市 7
2－1－3 長崎県長崎市 8
2－1－4 岩手県花巻市 9
2－1－5 京都府舞鶴市 10
2－1－6 福岡県古賀市 11
2－1－7 愛知県刈谷市 12
2－1－8 長野県上伊那広域連合（南箕輪村） 13
2－1－9 鳥取県琴浦町 14
2－1－10 千葉県木更津市 15
2－2 開催結果 16
第３章 効果検証（運営） 18
3－1 実施した広報活動 18
3－1－1 標準的な広報活動 18

3－1－2 地方公共団体独自の取組 19
3－1－3 イベント運営における課題 21
3－2 広報施策 22
3－2－1 概要（参加者が本事業を認知した広報媒体） 22
3－2－2 学校種別にみた来場経緯 26
3－2－3 理系への関心の度合いによる参加者の特徴 28
3－2－4 理系科目での苦手の有無による特徴（児童・生徒） 32
3－3 協力団体の選定及び依頼 33
第 4 章 効果検証（来場による効果の検証） 34
4－1 イベントの満足度 34
4－1－1 児童・生徒 34
4－1－2 保護者 36
4－2 実験教室の評価 38
4－3 イベント終了後の取組（自宅学習など） 42
4－3－1 児童・生徒 42
4－3－2 保護者 45
4－4 イベント終了後の具体的な変化に関する自由回答結果 47
第 5 章 総括 48
5－1 事業の広報手段 48
5－2 事業の対象者・イベント内容 50
5－2－1 参加者の学校種別イベントの効果 50
5－2－2 理系への関心度合いが低い児童・生徒の来場を促す動機付け 53
5－3 協力団体との連携方法 54
5－4 結びにかえて 54

参考資料１　会場アンケート調査票の例（木更津会場） 55
参考資料２　フォローアップアンケート調査票 59

第1章　調査概要

1－1　調査目的

我が国の理工系分野における女性研究者・技術者の割合は、増加傾向にあるものの依然とて低い水準であり、今後、本格的な人口減少社会を迎える中でイノベーションの創出によって社会の課題を解決するためにも、女性研究者等の活躍を推進することは急務である。しかしながら、理系の中でも特に理工系分野において次代を担う女子学生比率は低い状況であり、女子生徒等の理工系分野への進路選択が促進されることが必要である。

そこで、進路検討前段階にある女子児童・生徒が、科学技術に興味を持つ端緒となる機会の確保及びプログラムの策定を行うとともに、「STEM[1] Girls Ambassadors（理工系女子応援大使）」等によるロールモデルの紹介や、理工系分野の学習と具体的な職業を関連付けた学習機会の拡大・情報提供等を、イベントにより実施した。本事業を通じて、「生徒や保護者への効果的な周知方法」や「人材育成に資するプログラム」などの情報を収集し地方公共団体が地域の実情を踏まえて類似事業を実施できるよう、本事業から得られた知見を整理することを目的とした。

1－2　調査手法

1－2－1 イベントプログラムの企画

国内すべての地方公共団体を対象として、イベントの開催地の立候補を募り、10 か所を選定した。参加者募集のための広報活動については、選定された地方公共団体と協力・情報交換を行いながら実施した。

内容については、①STEM Girls Ambassadors による基調講演、②開催地の地方公共団体やその近隣に立地する企業・大学等による「理工系女子が活躍する職場紹介」、③開催地近隣の企業・大学等による参加・体験型の実験教室（いわゆるワークショップ）を開催することとした。

[1] Science, Technology, Engineering and Mathematics（科学・技術・工学・数学）の頭文字をとっており、理工系の教育・研究分野を示す。

①STEM Girls Ambassador による基調講演

STEM Girls Ambassador は、内閣府が委嘱している理工系分野を学び、様々分野で活躍している女性であり、トップランナーの生の声に学ぶことで、理工系分野へ進んだ先のロールモデル像の提供を狙いとした。講演では、主に STEM Girls Ambassador 自身の経験に基づき、なぜ理系分野を選んだのか、挫折することがあればどのように乗り越えたのか、現在取り組んでいること等について自由にお話いただくこととした。

②理工系女子が活躍する職場紹介

「身近な先輩」から理工系の進路について具体的なイメージを提供することを狙いとして、主に実際に現場で働く女性職員に、普段の仕事内容や働き方等をご紹介いただいた。講演者については、できるだけ開催地（またはその近隣）に所在する企業や大学で活躍されている女性に講演をお願いする方が、参加者がより「理工系を学んだ後の進路」を身近に感じられると思われることから、開催地またはその近隣に所在する企業・大学等を優先して選定する方針とした。

③実験教室の実施

実験教室については、学校ではなかなか体験できない本格的な実験機会を提供し、自ら手を動かすプログラムとすることで、理工系分野への興味・関心を喚起することを狙いとした。なお、体験できる実験の数については、各開催地によって事情が異なり（協力候補となる企業や団体の候補が多数あるかどうか等）、一律に件数を設定することは難しいものの、「理工系」の範囲が多様であることに鑑みて、できるだけ複数、可能であれば 3 件程度の実験を提供し、参加者がすべての実験に参加できるよう調整を目指した。

1－2－2 プログラム

前項までの事項を踏まえて決定したイベントのプログラムは以下のとおりである（図表 1）。

図表 1　イベントの標準的なプログラム

メニュー名	標準の時間配分	講演者
1．開会挨拶	10 分	内閣府
2．基調講演	50 分	STEM Girls Ambassadors
3．理工系女子が活躍する職場紹介	25 分	地元企業・大学等 （理工系出身の女性研究者等）
4．実験教室	85 分	地元企業・大学等 （3 件の実験を開催する場合、1 実験につき 25 分、会場間移動を 5 分とする）

1－2－3　アンケートの実施

参加者に対して、会場への入場時にアンケート用紙を配布し、来場手段、参加したことの満足度や効果等を記入いただいたうえで、イベント終了時に記入済みアンケートを回収した（当日アンケート）。

また、参加者に対して、2～3 か月後を目途（実施時期により調整）に、メール及びハガキにより、イベント参加後の学習等の状況を確認する WEB アンケートへの協力を依頼し、回答を得た（フォローアップアンケート）。

これらの集計・分析結果については 22 頁以降に示す。

なお、イベント及びアンケートの企画設計及び分析にあたっては、有識者へのヒアリングを行い、助言・提言を活用して内容の決定に至っている。

1－3　地方公共団体（開催地）の選定

開催地は、全国で 10 か所とし、その開催地を決定するため、国内すべての地方公共団体を対象として広く募集を行った。

エントリーに際しては、応募の理由を確認するだけでなく、周知広報の手段等をエントリ

ーシートに記載していただくこととし、記載内容等をもとに開催地を決定した。

1－3－1 選定基準

イベントを成功させられる見込みの高い地方公共団体を開催地とするように配慮し、以下の選定基準（図表 2）を設け、エントリーシートの内容をもとに採点を行った。

図表 2　選定基準

項目	評価のポイント
①会場候補	具体的な会場候補が想定されているかどうかを判断する
②会場利便性	会場候補として提示されている施設が、イベント（特に実験教室）の開催場所として適切であるかを判断する
③周知広報の手段	集客効果が期待できるかを判断する
④協力先の候補	理工系女子が活躍する職場紹介の登壇・実験教室を協力いただく依頼先（候補）があり、スムーズに実施計画の検討が行えるかを把握する
⑤応募理由等	各地域の課題に対して取組の目的が適切であるか、継続的な取組みへの期待ができるかを判断する

1－3－2 選定にあたっての留意事項

地方公共団体の規模や地域性等、幅広い事例を収集したいという観点から、地域バランスにも配慮しつつ、選定基準にしたがって内閣府が選定を行った。

1－3－3 募集・採択

本事業の応募は 2019 年 6 月 3 日より開始し、6 月 20 日まで応募を受け付けた。

応募件数は 37 件であった。また、採択数は地域ごとに 0～2 件とし、全体で 10 件を採択した（図表 3）。

図表 3　応募件数／採択件数

地域	県	応募者数	採択数
北海道	北海道	0	0
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	7	2
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県	9	2
北陸	新潟県、富山県、石川県	0	0
中部	福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県	9	2
近畿	三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	4	1
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	1	1
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県	0	0
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、	6	2
沖縄	沖縄県	1	0

〔採択された地方公共団体〕

青森県弘前市、岩手県花巻市、群馬県桐生市、千葉県木更津市、愛知県刈谷市、長野県上伊那広域連合（地方自治法によって定めのある特別地方公共団体）、京都府舞鶴市、鳥取県琴浦町、福岡県古賀市、長崎県長崎市

第2章 イベントの実施結果

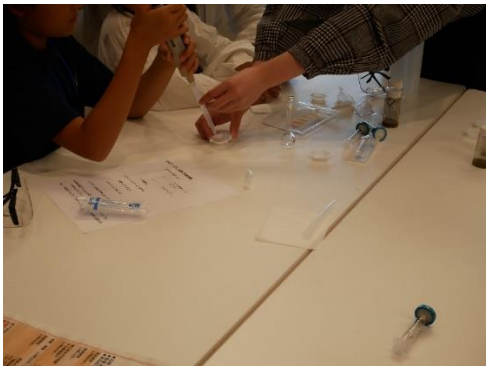
2－1　各会場の開催内容

以降には、各開催地における開催結果を示す。（開催日程順）

2－1－1 青森県弘前市

開催日程	令和元年 9 月 1 日（日）
開催場所	弘前文化センター
基調講演	STEM Girls Ambassador 早稲田大学創造理工学研究科准教授、 H2L Inc.創業者　玉城絵美氏
理工系女子が活躍する職場紹介	株式会社コーア　女性社員（技術職 2 名） （弘前市内に立地する製造事業者）
実験教室	弘前大学教員による 3 つの実験を開催した。 **①「実感するでんぷんの成分と食感」** 米粉パンと小麦のパンを試食し、手（触覚）だけでなく味覚も用いて違いを学ぶ実験を行い、それぞれのパンの性質（でんぷんの有無）によって科学的にどのような違いがあるのかの解説を行った。 **②「シャボン玉で火を消そう(シャボン玉を用いた消火実験)」** 空気砲による空気の流れと、シャボン玉と渦輪を用いた消火方法の実演等の実験を行った。 **③「走る、跳ぶ、登る液滴」** 液滴の蒸発実験を行い、ライデンフロスト現象を学ぶ実験を行った。また、液滴が斜面、壁面を登る現象について映像をスクリーンに投影し、解説を行った。 **＜実験教室「実感するでんぷんの成分と食感」の様子＞**

2－1－2 群馬県桐生市

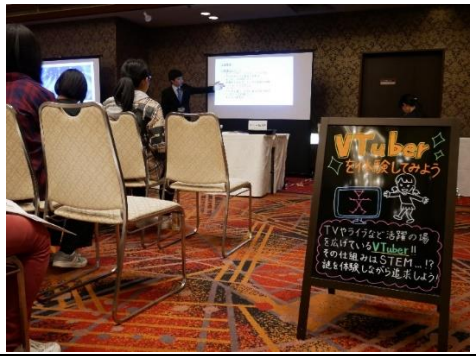
開催日程	令和元年 9 月 21 日（土）
開催場所	桐生市市民文化会館
基調講演	岩手大学 理工学部助教　阿部貴美氏 ※STEM Girls Ambassadors の調整がつかなかったため、前年度の内閣府類似事業登壇者から選定
理工系女子が活躍する職場紹介	桐生ガス株式会社　女性社員（技術職 1 名） （桐生市内に立地するガス事業者）
実験教室	群馬大学教員による実験を開催した。 **「渡良瀬川の銅を調べよう」** 　地元を流れる渡良瀬川の歴史を簡単に紹介し、その川に銅が含有されていることを、上流にある足尾銅山の歴史的経緯も含めて説明した。そのうえで、実際の銅の含有量について実験キットを用いて推量するとともに、川の土から銅を取り出すことの事業価値の検討（銅の市場価値、川の土から銅を抽出する費用を鑑みて、事業化が適切かどうかの検討）を行った。 **＜実験教室「渡良瀬川の銅を調べよう」の様子＞** 

2－1－3 長崎県長崎市

開催日程	令和元年 10 月 5 日（土）
開催場所	長崎市民会館
基調講演	STEM Girls Ambassador 日本マクドナルド株式会社 上席執行役員 チーフマーケティングオフィサー（CMO） ズナイデン房子氏
理工系女子が活躍する職場紹介	リコージャパン株式会社　長崎支社　男性社員（グループリーダー1 名、女性技術者が多く所属する部門の責任者） ※女性社員（技術職）のビデオメッセージを投影した （ICT 各種ソリューションの提供事業者で、長崎県内を管轄している）
実験教室	リコージャパン株式会社社員による 3 つの実験を開催した。 **①「360 度カメラで多面体を作ってみよう」** 360 度 1 周すべてを撮影できるカメラを用いてどのようなことができるのか（どのように活用されるのか）を紹介するとともに、撮影した写真をもとに立体（多面体）をつくり、その再現性などを体感した。 **②「オリジナルエコバッグを作ってみよう」** 帆布生地への速やかな印刷が可能なプリンターによる印刷を実演するとともに、その印刷時間を活用し、プリンターの仕組みについて解説を行った。 **③「描いた絵が動き出す！紙アプリで遊ぼう」** 病院で過ごす子どもたちにアートを通じて笑顔を届ける「キッズアートプロジェクト」等でも活用される「紙アプリ」を活用。子どもの書いた絵をスキャンし高速で取り込み、画面に表示する実演を行った。 **＜実験教室「オリジナルエコバッグを作ってみよう」の様子＞**

※本イベントは、長崎市市民生活部 人権男女共同参画室の主催イベントである学びと交流の場「アマランスフェスタ」と、同日同会場（一部は同時間帯）での開催であった。

2－1－4 岩手県花巻市

開催日程	令和元年 10 月 14 日（月・祝）
開催場所	花巻温泉ホテル紅葉館
基調講演	STEM Girls Ambassador オリエンタルコンサルタンツ　インド現地法人　取締役会長 阿部玲子氏
理工系女子が活躍する職場紹介	リコーインダストリアルソリューションズ株式会社 女性社員（技術職 4 名） （花巻市内に事業所を置く製造事業者）
実験教室	岩手大学教員及び技術職員による 3 つの実験を開催した。 **①「リニアモーターカーのしくみを知ろう」** リニアモーターカーモデルの走行実演、球体の浮上実演を行うとともに、その原理等について解説した。また、磁気空間の中で物体に電気が流れると、物体に力が発生し動くことをモデル実演で解説した。 **②「VTuber を体験してみよう」** VTuber の生放送に用いられている機器の仕組みを説明した上で、自身の画面上のキャラクターの動きが連動するモーションキャプチャー、表情キャプチャーを体験した。 **③「虹色を試験管で作ってみよう」** 酸塩基反応を利用することで虹色（6 色）が発色する現象、中和反応で透明になる現象を観察し、乾燥花と食用レモン汁を利用し、家庭でもできる紅茶の色を変化させる実験を実施した。 **＜実験教室「VTuber を体験してみよう」の様子＞** 

2－1－5 京都府舞鶴市

開催日程	令和元年 11 月 4 日（月・休日）
開催場所	赤れんがパーク
基調講演	STEM Girls Ambassador 国立研究開発法人 科学技術振興機構　副理事 渡辺美代子氏
理工系女子が活躍する職場紹介	株式会社エナミ精機　女性社員（技術職 1 名） （舞鶴市に立地する製造事業者） 松井アーキメタル株式会社　女性役員　（1 名） （京都市に本社を置き、舞鶴市に工場を置く製造事業者）
実験教室	近畿職業能力開発大学校京都校と舞鶴工業高等専門学校の教員による 2 つの実験を開催した。（各校 1 つずつ担当） **①「初めて触れるロボットプログラミング」（近畿職業能力開発大学校京都校）** コンピュータ内の仮想ロボットアームを動作させるためのプログラミング作成・動作確認を体験した。また、本物の小型ロボットアームの展示も行った。 **②「足し算から考えるアルゴリズム」（舞鶴工業高等専門学校）** 複数名でのグループを形成して数字のカードを用い、計算の仕方の最適解を探索するアルゴリズムを考える体験を行った。 **＜実験教室「初めて触れるロボットプログラミング」の様子＞**

2－1－6 福岡県古賀市

開催日程	令和元年 11 月 10 日（日）
開催場所	リーパスプラザこが交流館
基調講演	STEM Girls Ambassador 東京大学大学院工学研究科バイオエンジニアリング専攻 杉本雛乃氏
理工系女子が活躍する職場紹介	株式会社西部技研　女性社員１名（技術職１名） 男性社員１名（管理部門１名） （古賀市に立地する製造事業者）
実験教室	株式会社西部技研社員による、2 つの実験を開催した。 **①空気のリサイクル** **②比べてみよう！乾燥空気とふつうの空気** ２つの実験いずれもワークシートを用意し、機器を通した二酸化炭素の除去や濃縮について実演により学ぶとともに、空気の成分等をテーマにした学習と組みあわせた実験教室を行った。 **＜実験教室「空気のリサイクル」の様子＞**

2－1－7 愛知県刈谷市

開催日程	令和元年 11 月 16 日（土）
開催場所	刈谷市総合文化センター
基調講演	STEM Girls Ambassador 日本マクドナルド株式会社 上席執行役員 チーフマーケティングオフィサー（CMO） ズナイデン房子氏
理工系女子が活躍する職場紹介	刈谷市役所　施設保全課　女性職員（技術職 1 名）
実験教室	名古屋大学 未来材料・システム研究所 技術職員による**「楽しみながら理科実験！～モーターと電気回路のしくみ～」**を開催した。 　参加者 2 名ごとに 1 セットの簡単な実験キットを複数種類配布し、コイル（磁石）とモーターの関係について学び、実際に磁石によってモーターを回転させる仕組み等を体験した。 **＜実験教室「楽しみながら理科実験！～モーターと電気回路のしくみ～」の様子＞**

2－1－8 長野県上伊那広域連合（南箕輪村）

開催日程	令和元年 11 月 23 日（土・祝）
開催場所	長野県南信工科短期大学校
基調講演	STEM Girls Ambassador 早稲田大学創造理工学研究科准教授、 H2L Inc.創業者　玉城絵美氏
理工系女子が活躍する職場紹介	大明化学工業株式会社　女性社員（技術職 1 名） （南箕輪村に立地する製造事業者）
実験教室	南信工科短期大学校による 3 つの実験を開催した。 **①3D 技術によるものづくり（3D-CAD によるモデリング体験）** 実際に学生が利用している CAD ルームにて、キャラクターのモデリングを体験した。 **②水溶液からリン酸二水素アンモニウム結晶を育成** いわゆる「人造結晶」としてしばしば活用されるリン酸二水素アンモニウム結晶の育成を体感し、生成された結晶はお持ち帰りいただいた。 **③無線ブロックを使った体感プログラミング** 複数のブロック（各ブロックに、プログラミングにおける「命令」が与えられている）を用い、プログラミング言語不要の簡単なプログラミングを体験した。 **＜実験教室「水溶液からのリン酸二水素アンモニウム結晶の育成」の様子＞**

2－1－9 鳥取県琴浦町

開催日程	令和元年 12 月 1 日（日）
開催場所	琴浦町赤碕地域コミュニティーセンター
基調講演	STEM Girls Ambassador 国立研究開発法人 科学技術振興機構　副理事 渡辺美代子氏
理工系女子が活躍する職場紹介	株式会社 LASSIC　女性社員（IT 職 1 名） （本社を鳥取市に置く IT 事業者）
実験教室	鳥取大学、公立鳥取環境大学、米子工業高等専門学校による 3 つの実験を開催した。（各校 1 つずつ担当） **①「レオナルドの橋を作ってみよう」（鳥取大学）** 　レオナルド・ダ・ヴィンチがデザインしたとされる、木材を釘や接着剤なしに組み立てる橋の製作体験を行った。割り箸大の木材によって自ら机上で制作するだけでなく、人が乗ることのできる大きさのものも用意し、実際に乗る体験も行った。 **②圧電光るうちわ～ネコの目を光らせよう～（公立鳥取環境大学）** 　圧電現象（結晶のある方向に力を加えると、その結晶の両端に電圧が発生する現象）を利用し、振ることで LED ライトが光るうちわの製作体験を行った。 **③ユニークなスライムを作ろう（米子工業高等専門学校）** 　スライムを作る際に、何が軟らかさに関係しているのか、学びながら実験を行った。 **＜実験教室「レオナルドの橋を作ってみよう」の様子＞**

2－1－10 千葉県木更津市

開催日程	令和元年 12 月 15 日(日) ※当初は令和元年 9 月 14 日の開催を予定していたが、9 月 9 日に千葉県千葉市付近に上陸した台風 15 号により、木更津市及びその周辺地域に多大な影響が発生したため、開催を延期した。
開催場所	木更津工業高等専門学校
基調講演	STEM Girls Ambassador 東京大学大学院工学研究科バイオエンジニアリング専攻 杉本雛乃氏
理工系女子が活躍する職場紹介	木更津工業高等専門学校　女性職員（技術職 1 名） 公益財団法人かずさ DNA 研究所　女性社員（広報担当者 1 名） （ゲノム等の研究を行う機関）
実験教室	木更津工業高等専門学校、かずさ DNA 研究所による 4 つの実験を実施した。（木更津工業高等専門学校が 3 つ、かずさ DNA 研究所が 1 つの実験を実施） なお、本会場では、いずれかの実験 1 つを選択していただき、約 80 分参加していただく形式をとった。 **①謎のお肉の DNA 鑑定（かずさ DNA 研究所）** 食肉を用い、実際に DNA を抽出し、その DNA を増幅させる実験を行った。（対象者の年代により、講義者を 2 名に分け実施） **②低温の世界（木更津工業高等専門学校）** 液体窒素を用い、植物等を瞬間冷却させる実験等を実施した。 **③金属探知機を作って宝探し！！（木更津工業高等専門学校）** 実際に金属に反応する探知機を制作して、宝探し体験を行った。 **④君にも作れる光通信（木更津工業高等専門学校）** 光の性質を学びながら、光通信を体験できるおもちゃを制作した。 **＜実験教室「低温の世界」の様子＞**

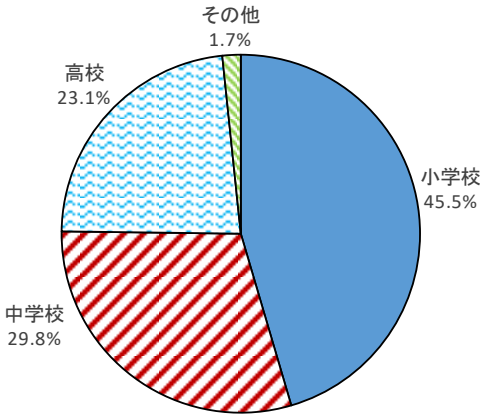
2－2　開催結果

参加者の人数とその内訳は以下のとおりであった。

NO.	日時	曜日	県	開催地	来場者数（人）		
						うち児童・生徒	うち保護者
1	9月1日	日	青森県	弘前市	78	45	33
2	9月21日	土	群馬県	桐生市	34	4	30
3	10月5日	土	長崎県	長崎市	54	31	23
4	10月14日	月（祝）	岩手県	花巻市	83	45	38
5	11月4日	月（休）	京都府	舞鶴市	37	19	18
6	11月10日	日	福岡県	古賀市	36	19	17
7	11月16日	土	愛知県	刈谷市	25	8	17
8	11月23日	土（祝）	長野県	南箕輪村	50	33	17
9	12月1日	日	鳥取県	琴浦町	54	32	22
10	12月15日	日	千葉県	木更津市	77	39	38

参加者のうち、児童・生徒の内訳については小学生が最も多く 45.5%、中学生が 29.8%、高校生が 23.1%であった（図表 4）。

図表 4　参加者（児童・生徒）の所属の内訳



なお、メディア取材による記事化・放送については、会場で受付に申し出のあった限りにおいて以下のとおりであった。

	メディア名称・掲載/放送日	タイトル（見出し）
弘前会場	東奥日報（2019年9月2日掲載）	「明確な欲望は実現する」 理系女子応援大使　玉城さん講演　弘前
	読売新聞（2019年9月3日掲載）	女子にも理系の魅力を　実験教室など 弘前でイベント
	陸奥新報（2019年9月3日掲載）	弘前で「リケジョ」育成イベント／内閣府
桐生会場	上毛新聞（2019年9月22日掲載）	「理系は就職に有利」　岩手大助教・阿部さん講演 桐生
長崎会場	長崎新聞（2019年10月7日掲載）	理工系女子目指そう　ズナイデン房子さんが講演
花巻会場	岩手日報（2019年10月16日掲載）	花巻　理工系女子育成へ　講演、実験で関心向上 内閣府イベント
舞鶴会場	読売新聞（2019年11月5日掲載）	プログラミングなど　未来のリケジョ挑戦　舞鶴
	京都新聞（2019年11月5日掲載）	リケジョ「堂々と生きて」　舞鶴で男女共同参画 イベント　小中生、プログラミング体験
上伊那広域連合（南箕輪）会場	信濃毎日新聞（2019年11月24日掲載）	女子の理工系進学を後押し　南箕輪で催し
	長野日報（2019年11月24日掲載）	集まれ理工系女性 南箕輪でリコチャレ
木更津会場	Jcom-千葉（2020年1月16日放送）	※番組「デイリーニュース 」内で放送

第3章 効果検証（運営）

3－1　実施した広報活動

3－1－1 標準的な広報活動

本事業において、大半の地方公共団体で実施した標準的な広報活動（学校への協力依頼等）を示す。

(１)共通のホームページ及びチラシの作成

本事業の周知広報活動のため、事務局がホームページを開設し、イベント内容を掲載するとともに、申込用サイトへのリンクを行い、参加申し込みを受け付けた。また、このサイトへの誘導のため、事務局が配布用のチラシ、掲載用のポスターを作成するとともに、一部地域については新聞への広告掲載を実施した。

＜作成したチラシの例（長崎会場）＞

＜表面＞

＜裏面＞

このほかには、内閣府男女共同参画局のホームページ、facebook から本イベントのホームページへのリンクを貼り閲覧者を誘導した他、内閣府や文部科学省のメールマガジンを活用し、読者に対して周知を図った。

(２)開催地の小中学校、近隣の高校でのチラシ配布（一部ポスター掲出）

地方公共団体内の小中学校に対して事務局が作成したチラシを送付し、各学校の教員から児童・生徒にチラシ配布を行った。また、高校向けについては、当該地域の規模、高校の設置数等の状況を勘案し、チラシの配布対象とする学校を近隣地方公共団体まで範囲を広げた。

(３)開催地の地方公共団体施設や駅でのチラシ配布（一部ポスター掲出）

地方公共団体の施設（庁舎、図書館、生涯学習センター等）や、鉄道駅でのポスター掲出、チラシ設置を実施した。

(４)地方公共団体のホームページ、広報紙、ＳＮＳ、メールマガジン等での周知

各地方公共団体のホームページや SNS、メールマガジン等の電子媒体を活用して周知を図ったほか、月 1～2 回程度発行される地方公共団体の広報紙においてイベントの告知を行った。

3－1－2 地方公共団体独自の取組

以下には、一部の開催地にて実施した広報活動を例として紹介する。

(１)地域メディアの活用

本イベントの開催について、首長等が行う定例記者会見や記者懇談会の場で公表することや、地方公共団体の本事業を担当する部署から地元マスコミに情報提供を行ったことにより、開催の告知に相当する新聞記事の掲載やテレビ放送が行われる事例もあった。

(２)近隣都市での広報

近隣の地方公共団体にも協力を要請し、近隣の地方公共団体内の庁舎や公共施設、小中学校でのチラシやポスターの設置・配布を行った。同様に、県の出先機関にチラシを設置いただいたケースもある。参加者のアンケートから、一部開催地では隣接地方公共団体等からの参加者も見られた。

(３)イベント情報サイト等への掲載

事務局及び地方公共団体が地元住民向けのタウン情報サイトやタウン情報フリーペーパ

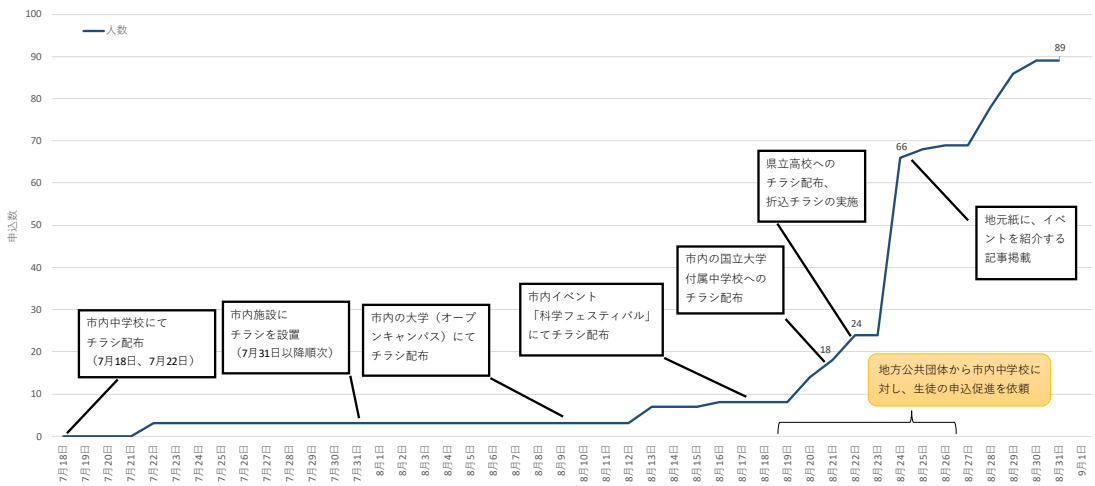
ーに依頼し、イベント情報を掲載した。

(4)他のイベントの活用

対象者が本イベントと一定程度重なると考えられる他のイベント（具体的には、中学生向けの進学フェア、小中学生向けの環境学習イベント等）において、地方公共団体が本イベントの開催案内チラシの配布を行った。

各種の取組と申込状況の関係について、弘前会場の申込状況を例に示す（図表 5）。

図表 5　イベント申込者数（弘前会場、申込者数は累積）



3－1－3 イベント運営における課題

広報活動の実施について、各地方公共団体にヒアリングしたところ以下のような課題点が挙げられた。今後同様の事業を実施する際に、参考になる情報と考えられる。

(1)広報の実施スケジュール

登壇いただく講師・企業・団体との調整に多大な時間を要した結果、広報用資料であるチラシの作成・配布に遅れが生じた場合もあった。そのため、事業のスケジュールを組む際には、プログラム内容の調整に十分な準備期間を確保することが必要である。

この他、チラシ作成においては、教育委員会等を通じて各学校へ配布し、更に学内で教員から児童・生徒へ配布するための十分な期間を見込んでおくことが必要である。

(2)他イベントとの同時開催・調整

10 会場のうち 2 会場については、他の男女共同参画関連イベントと同日・同会場での実施となり、相乗効果を期待したところであったが、開催時間が重なっている等の理由から、両方に参加するというケースは多くは見られなかった。

他のイベントと併せて開催するのであれば、タイムテーブルや対象者（年齢層等）の調整を行い、子どもや保護者向けのイベントは同一時間帯には並行開催をしないなどといった事前準備が必要であった。

また、当イベントは児童・生徒及び保護者の来場利便性を鑑みて土日祝日の午後に開催したが、この曜日・時間に開催すると、児童・生徒が参加する他の行事・イベント等と競合する可能性もある。イベントの実施日については、学校の運動会など、地域の児童・生徒を対象とした行事等が近隣で開催される予定がないかを確認してから、決定する必要がある。

3－2　広報施策

3－2－1 概要（参加者が本事業を認知した広報媒体）

本イベントの各会場への申込について、応募者がイベントを知った経緯（媒体）は、児童・生徒、保護者ともに「通っている学校で配布されたプリント・チラシ」が最も多い（図表 6、図表 7）。また、児童・生徒は「家族から聞いた」も多い。

図表 6　イベントを知った経緯（児童・生徒、複数回答）

	全体	通っている学校で配布されたプリント・チラシ	学習塾・予備校で配布されたプリント・チラシ	大学で配布されたチラシ	その他イベントで配布されたプリント・チラシ	自治体のホームページ	自治体の広報紙	自治体の広報SNS（フェイスブック・ツイッター・メールマガジン）	図書館や公民館等、自治体の公共施設に置かれていた・配布されていたチラシ	商店・商業施設で掲示・配布されていたチラシ	自治体のタウン誌	駅に掲示されたポスター
全体	242 (1.19)	148 (61.2%)	6 (2.5%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	1 (0.4%)	10 (4.1%)	4 (1.7%)	4 (1.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
木更津	40 (1.10)	25 (62.5%)	0 (0.0%)	－	0 (0.0%)	1 (2.5%)	－	2 (5.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	－	－
琴浦	26 (1.19)	13 (50.0%)	0 (0.0%)	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (7.7%)	0 (0.0%)	1 (3.8%)	－	0 (0.0%)	－
南箕輪	24 (1.21)	17 (70.8%)	－	－	－	0 (0.0%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	－	－	0 (0.0%)
刈谷	4 (1.00)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	－	－	0 (0.0%)
古賀	17 (1.12)	7 (41.2%)	1 (5.9%)	－	－	0 (0.0%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	－	－	0 (0.0%)
舞鶴	14 (1.50)	9 (64.3%)	1 (7.1%)	－	－	0 (0.0%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	1 (7.1%)	－	－	0 (0.0%)
花巻	39 (1.18)	22 (56.4%)	0 (0.0%)	－	－	0 (0.0%)	5 (12.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	－	－	0 (0.0%)
長崎	30 (1.07)	28 (93.3%)	－	－	1 (3.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	－	－	－
桐生	4 (1.50)	3 (75.0%)	2 (50.0%)	－	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	－	－
弘前	44 (1.27)	23 (52.3%)	2 (4.5%)	1 (2.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	－	2 (4.5%)	1 (2.3%)	－	－	－

	全体	町内放送	新聞記事	新聞折込チラシ	テレビ・ラジオ（ケーブルテレビ・コミュニティFM含む）	内閣府のホームページ	内閣府のメールマガジン	上記以外のホームページ	家族から聞いた	友人から聞いた	その他
全体	242 (1.19)	4 (1.7%)	10 (4.1%)	3 (1.2%)	0 (0.0%)	2 (0.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	68 (28.1%)	19 (7.9%)	7 (2.9%)
木更津	40 (1.10)	－	0 (0.0%)	－	0 (0.0%)	1 (2.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (30.0%)	1 (2.5%)	2 (5.0%)
琴浦	26 (1.19)	4 (15.4%)	－	－	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (23.1%)	5 (19.2%)	0 (0.0%)
南箕輪	24 (1.21)	－	0 (0.0%)	－	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (37.5%)	1 (4.2%)	0 (0.0%)
刈谷	4 (1.00)	－	－	－	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (75.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
古賀	17 (1.12)	－	－	－	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (35.3%)	2 (11.8%)	2 (11.8%)
舞鶴	14 (1.50)	－	1 (7.1%)	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (28.6%)	2 (14.3%)	2 (14.3%)
花巻	39 (1.18)	－	－	－	－	1 (2.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	13 (33.3%)	5 (12.8%)	0 (0.0%)
長崎	30 (1.07)	－	0 (0.0%)	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (10.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
桐生	4 (1.50)	－	0 (0.0%)	－	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (25.0%)
弘前	44 (1.27)	－	9 (20.5%)	3 (6.8%)	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	12 (27.3%)	3 (6.8%)	0 (0.0%)

※ “－”は、当該地方公共団体では実施しなかった項目であることを示す。
※ 各地方公共団体名の横の「全体」欄は、当該会場のアンケート回答数と、1 人あたりの本設問における平均回答選択数を示す。
※ 上記 2 点については、以降の集計表も同様である。

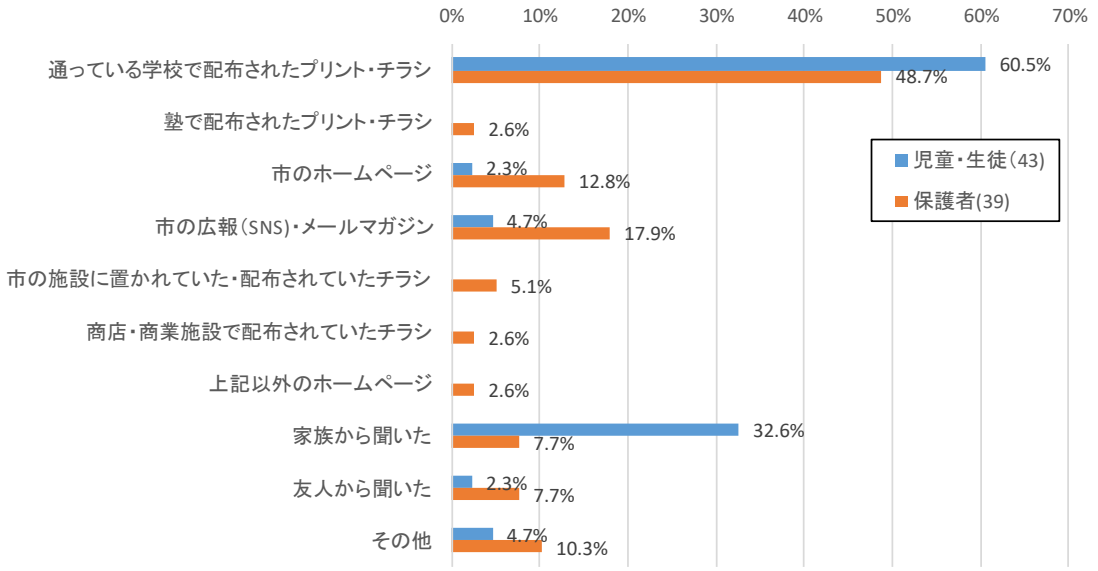
図表 7　イベントを知った経緯（保護者、複数回答）

	全体	通っている学校で配布されたプリント・チラシ	学習塾・予備校で配布されたプリント・チラシ	大学で配布されたチラシ	その他イベントで配布されたプリント・チラシ	自治体のホームページ	自治体の広報紙	自治体の広報SNS（フェイスブック・ツイッター・メールマガジン）	図書館や公民館等、自治体の公共施設に置かれていた・配布されていたチラシ	商店・商業施設で掲示・配布されていたチラシ	自治体のタウン誌	駅に掲示されたポスター
全体	218 (1.26)	93 (42.7%)	6 (2.8%)	1 (0.5%)	4 (1.8%)	16 (7.3%)	22 (10.1%)	19 (8.7%)	13 (6.0%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
木更津	36 (1.25)	17 (47.2%)	0 (0.0%)	－	0 (0.0%)	5 (13.9%)	－	6 (16.7%)	2 (5.6%)	1 (2.8%)	－	－
琴浦	16 (1.56)	12 (75.0%)	1 (6.3%)	－	0 (0.0%)	3 (18.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	－	0 (0.0%)	－
南箕輪	19 (1.11)	14 (73.7%)	－	－	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	3 (15.8%)	－	－	0 (0.0%)
刈谷	16 (1.25)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	－	3 (18.8%)	0 (0.0%)	4 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	－	－	0 (0.0%)
古賀	16 (1.38)	8 (50.0%)	1 (6.3%)	－	－	1 (6.3%)	3 (18.8%)	1 (6.3%)	2 (12.5%)	－	－	0 (0.0%)
舞鶴	10 (1.20)	2 (20.0%)	0 (0.0%)	－	－	2 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (20.0%)	－	－	0 (0.0%)
花巻	22 (1.32)	6 (27.3%)	0 (0.0%)	－	－	2 (9.1%)	7 (31.8%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	－	－	0 (0.0%)
長崎	24 (1.04)	18 (75.0%)	－	－	1 (4.2%)	0 (0.0%)	2 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	－	－	－
桐生	28 (1.25)	2 (7.1%)	3 (10.7%)	－	－	1 (3.6%)	6 (21.4%)	5 (17.9%)	3 (10.7%)	1 (3.6%)	－	－
弘前	31 (1.32)	13 (41.9%)	1 (3.2%)	1 (3.2%)	0 (0.0%)	2 (6.5%)	－	6 (19.4%)	0 (0.0%)	－	－	－

	全体	町内放送	新聞記事	新聞折込チラシ	テレビ・ラジオ（ケーブルテレビ・コミュニティFM含む）	内閣府のホームページ	内閣府のメールマガジン	上記以外のホームページ	家族から聞いた	友人から聞いた	その他
全体	218 (1.26)	4 (1.8%)	14 (6.4%)	4 (1.8%)	0 (0.0%)	10 (4.6%)	2 (0.9%)	1 (0.5%)	22 (10.1%)	16 (7.3%)	26 (11.9%)
木更津	36 (1.25)	－	0 (0.0%)	－	0 (0.0%)	4 (11.1%)	0 (0.0%)	1 (2.8%)	3 (8.3%)	3 (8.3%)	3 (8.3%)
琴浦	16 (1.56)	4 (25.0%)	－	－	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)	3 (18.8%)
南箕輪	19 (1.11)	－	0 (0.0%)	－	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (15.8%)
刈谷	16 (1.25)	－	－	－	－	3 (18.8%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)	1 (6.3%)	4 (25.0%)
古賀	16 (1.38)	－	－	－	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)	4 (25.0%)
舞鶴	10 (1.20)	－	1 (10.0%)	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	2 (20.0%)	2 (20.0%)
花巻	22 (1.32)	－	－	－	－	1 (4.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (31.8%)	3 (13.6%)	2 (9.1%)
長崎	24 (1.04)	－	1 (4.2%)	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.2%)	2 (8.3%)	0 (0.0%)
桐生	28 (1.25)	－	2 (7.1%)	－	－	2 (7.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (7.1%)	3 (10.7%)	5 (17.9%)
弘前	31 (1.32)	－	10 (32.3%)	4 (12.9%)	－	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (6.5%)	2 (6.5%)	0 (0.0%)

参考として、木更津会場の参加者におけるイベントを知った経緯のグラフを以下に示す（図表 8）。児童・生徒、保護者ともに「通っている学校で配布されたプリント・チラシ」が最も多く、児童・生徒は「家族から聞いた」が次に多いのに対し、保護者は「市の広報（SNS）・メールマガジン」や「市のホームページ」が比較的多いのが特徴である。

図表 8　イベントを知った経緯（木更津会場、複数回答）



なお、各会場の広報活動におけるチラシ（地方公共団体独自作成のチラシを含む）の配布・設置枚数は以下のとおりであった（図表 9）。

いずれの会場においてもチラシの配布・設置箇所を検討のうえでチラシの枚数を決定したが、プログラムの決定に時間がかかり、チラシの配布時期が遅れてしまったことにより、チラシの配布枚数に比較して、参加者が少ない場合もあった。

一方、参加者が多かった花巻、弘前、木更津の 3 会場については、チラシの配布枚数はいずれも 1 万枚以下（ただし、木更津会場は台風により延期となったため、2 回配布）であったが、地方公共団体担当者が直接各学校に訪問を行う等の働きかけを行う、児童・生徒にチラシ配布を行う教員向けの説明資料を準備する等、配布にあたっての工夫を行っており、その結果、多くの参加者があった。

図表 9　チラシの配布・設置枚数

	木更津（延期日程）	木更津（当初日程）	琴浦	南箕輪	刈谷	古賀	舞鶴	花巻	長崎	桐生	弘前	全会場
小学校向け	900	2,650	2,900	4,300	4,000	1,400	2,200	0	7,000	3,650	1,000	30,000
中学校向け	1,200	3,500	3,800	5,600	4,000	1,800	1,000	2,700	8,700	2,750	1,500	36,550
高校向け	600	900	7,400	3,000	4,000	50	1,000	3,050	9,800	1,600	1,950	33,350
その他	1,800	1,950	550	150	450	550	800	1,100	3,000	4,000	750	15,100
合計	4,500	9,000	14,650	13,050	12,450	3,800	5,000	6,850	28,500	12,000	5,200	115,000

※　「その他」は、市役所、図書館、生涯学習センター等での配布及び設置枚数を指し、すべてが配布されたとは限らない。

※　木更津会場については、当初 9 月に開催を予定しチラシを作成・配布したが、台風等の影響により、12 月に延期した。しかし、9 月に参加申込をした方のうち半数程度が 12 月の参加を希望したため、12 月開催を周知するためのチラシ配布は数量を抑えて実施した。

3－2－2　学校種別にみた来場経緯

(1)児童・生徒

まず児童・生徒についてみると、小学生、中学生、高校生ともに「通っている学校で配布されたプリント・チラシ」が最も多く、「家族から聞いた」が次に多い（図表 10）。

図表 10　児童・生徒　イベントを知った経緯（学校種別、複数回答）

	全体	通っている学校で配布されたプリント・チラシ	学習塾・予備校で配布されたプリント・チラシ	大学で配布されたチラシ	その他イベントで配布されたプリント・チラシ	自治体のホームページ	自治体の広報紙	自治体の広報SNS（フェイスブック・ツイッター・メールマガジン）	図書館や公民館等、自治体の公共施設に置かれていた・配布されていたチラシ	商店・商業施設で掲示・配布されていたチラシ	自治体のタウン誌	駅に掲示されたポスター
全体	240	147	6	1	1	1	10	4	4	0	0	0
	(1.19)	(61.3%)	(2.5%)	(0.4%)	(0.4%)	(0.4%)	(4.2%)	(1.7%)	(1.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
小学校	109	59	2	0	1	1	7	1	2	0	0	0
	(1.14)	(54.1%)	(1.8%)	(0.0%)	(0.9%)	(0.9%)	(6.4%)	(0.9%)	(1.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
中学校	71	49	3	0	0	0	2	2	1	0	0	0
	(1.27)	(69.0%)	(4.2%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(2.8%)	(2.8%)	(1.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
高校	56	38	1	1	0	0	0	1	1	0	0	0
	(1.21)	(67.9%)	(1.8%)	(1.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(1.8%)	(1.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
その他	4	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	(1.00)	(25.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(25.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)

	全体	町内放送	新聞記事	新聞折込チラシ	テレビ・ラジオ（ケーブルテレビ・コミュニティFM含む）	内閣府のホームページ	内閣府のメールマガジン	上記以外のホームページ	家族から聞いた	友人から聞いた	その他
全体	240	4	10	3	0	2	0	0	68	18	7
	(1.19)	(1.7%)	(4.2%)	(1.3%)	(0.0%)	(0.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(28.3%)	(7.5%)	(2.9%)
小学校	109	2	4	1	0	0	0	0	31	9	4
	(1.14)	(1.8%)	(3.7%)	(0.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(28.4%)	(8.3%)	(3.7%)
中学校	71	1	3	1	0	2	0	0	20	3	3
	(1.27)	(1.4%)	(4.2%)	(1.4%)	(0.0%)	(2.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(28.2%)	(4.2%)	(4.2%)
高校	56	1	3	1	0	0	0	0	16	5	0
	(1.21)	(1.8%)	(5.4%)	(1.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(28.6%)	(8.9%)	(0.0%)
その他	4	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
	(1.00)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(25.0%)	(25.0%)	(0.0%)

(2)保護者

保護者についても、児童・生徒と同様「通っている学校で配布されたプリント・チラシ」が最も多い。

このほかの傾向についてみると、小学生の保護者は「家族から聞いた」が多く（10.8%）、中学生の保護者は「家族から聞いた」と「自治体のホームページ」が多い（各12.3%）。高校生の保護者は「自治体の広報紙」が多い（17.4%）。

地方公共団体から保護者に直接アプローチできるホームページ、SNS、広報紙が、比較的多く到達している（全体に占める回答比率：ホームページ及び SNS 各 7.9%、広報紙 7.3%）ことから、地方公共団体が行う地道な広報手段についても、重視する必要がある（図表 11）。

図表 11　保護者　イベントを知った経緯（子どもの学校種別、複数回答）

	全体	通っている学校で配布されたプリント・チラシ	学習塾・予備校で配布されたプリント・チラシ	大学で配布されたチラシ	その他イベントで配布されたプリント・チラシ	自治体のホームページ	自治体の広報紙	自治体の広報SNS（フェイスブック・ツイッター・メールマガジン）	図書館や公民館等、自治体の公共施設に置かれていた・配布されていたチラシ	商店・商業施設で掲示・配布されていたチラシ	自治体のタウン誌	駅に掲示されたポスター
全体	164	89	5	1	1	13	12	13	6	1	0	0
	(1.28)	(54.3%)	(3.0%)	(0.6%)	(0.6%)	(7.9%)	(7.3%)	(7.9%)	(3.7%)	(0.6%)	(0.0%)	(0.0%)
小学生	83	48	1	0	1	4	3	5	5	1	0	0
	(1.23)	(57.8%)	(1.2%)	(0.0%)	(1.2%)	(4.8%)	(3.6%)	(6.0%)	(6.0%)	(1.2%)	(0.0%)	(0.0%)
中学生	57	31	4	0	0	7	5	6	1	0	0	0
	(1.37)	(54.4%)	(7.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(12.3%)	(8.8%)	(10.5%)	(1.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
高校生	23	10	0	1	0	2	4	2	0	0	0	0
	(1.26)	(43.5%)	(0.0%)	(4.3%)	(0.0%)	(8.7%)	(17.4%)	(8.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(1.00)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)

	全体	町内放送	新聞記事	新聞折込チラシ	テレビ・ラジオ（ケーブルテレビ・コミュニティFM含む）	内閣府のホームページ	内閣府のメールマガジン	上記以外のホームページ	家族から聞いた	友人から聞いた	その他
全体	164	4	12	4	0	5	1	1	19	9	14
	(1.28)	(2.4%)	(7.3%)	(2.4%)	(0.0%)	(3.0%)	(0.6%)	(0.6%)	(11.6%)	(5.5%)	(8.5%)
小学生	83	4	6	3	0	1	1	0	9	4	6
	(1.23)	(4.8%)	(7.2%)	(3.6%)	(0.0%)	(1.2%)	(1.2%)	(0.0%)	(10.8%)	(4.8%)	(7.2%)
中学生	57	0	3	0	0	4	0	1	7	4	5
	(1.37)	(0.0%)	(5.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(7.0%)	(0.0%)	(1.8%)	(12.3%)	(7.0%)	(8.8%)
高校生	23	0	3	1	0	0	0	0	2	1	3
	(1.26)	(0.0%)	(13.0%)	(4.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(8.7%)	(4.3%)	(13.0%)
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	(1.00)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)

3－2－3　理系への関心の度合いによる参加者の特徴

(1)児童・生徒

児童・生徒について、以前から理系への関心があったかどうかで区分し、イベントを知った経緯をみると、関心の度合いに関わらず「通っている学校で配布されたプリント・チラシ」が最も多く、次に「家族から聞いた」が多い。

また、関心の度合いが低いほど「家族から聞いた」や「友人から聞いた」の回答割合が高い傾向がみられる（図表 12）。

図表 12　児童・生徒　イベントを知った経緯（理系への関心の度合い別、複数回答）

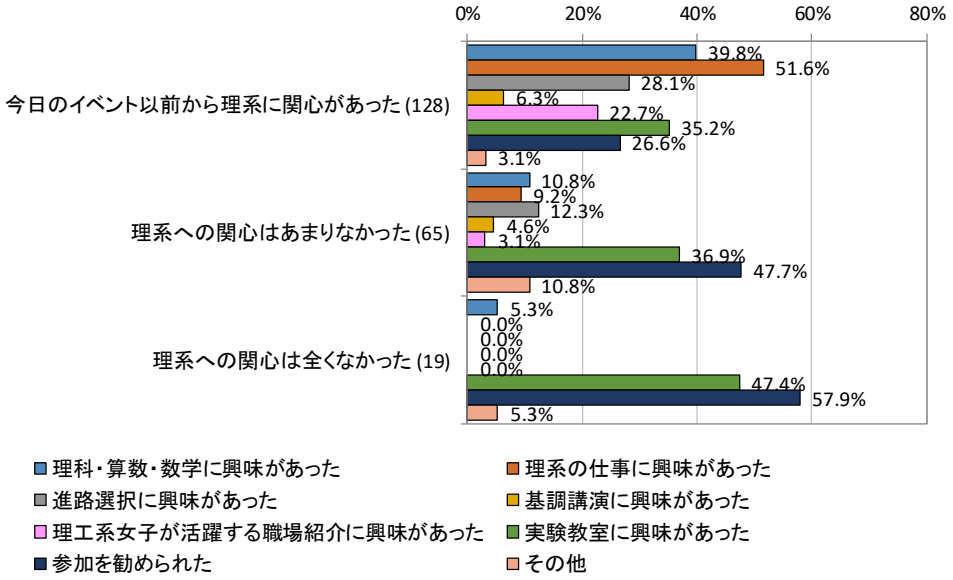
	全体	通っている学校で配布されたプリント・チラシ	学習塾・予備校で配布されたプリント・チラシ	大学で配布されたチラシ	その他イベントで配布されたプリント・チラシ	自治体のホームページ	自治体の広報紙	自治体の広報SNS（フェイスブック・ツイッター・メールマガジン）	図書館や公民館等、自治体の公共施設に置かれていた・配布されていたチラシ	商店・商業施設で掲示・配布されていたチラシ	自治体のタウン誌	駅に掲示されたポスター
全体	211 (1.19)	134 (63.5%)	6 (2.8%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)	1 (0.5%)	8 (3.8%)	3 (1.4%)	3 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
今日のイベント以前から理系に関心があった	128 (1.17)	86 (67.2%)	3 (2.3%)	1 (0.8%)	0 (0.0%)	1 (0.8%)	3 (2.3%)	3 (2.3%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
理系への関心はあまりなかった	64 (1.22)	37 (57.8%)	3 (4.7%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)	3 (4.7%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
理系への関心は全くなかった	19 (1.26)	11 (57.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (10.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

	全体	町内放送	新聞記事	新聞折込チラシ	テレビ・ラジオ（ケーブルテレビ・コミュニティFM含む）	内閣府のホームページ	内閣府のメールマガジン	上記以外のホームページ	家族から聞いた	友人から聞いた	その他
全体	211 (1.19)	2 (0.9%)	10 (4.7%)	3 (1.4%)	0 (0.0%)	2 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	56 (26.5%)	16 (7.6%)	6 (2.8%)
今日のイベント以前から理系に関心があった	128 (1.17)	0 (0.0%)	6 (4.7%)	3 (2.3%)	0 (0.0%)	2 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	28 (21.9%)	7 (5.5%)	5 (3.9%)
理系への関心はあまりなかった	64 (1.22)	2 (3.1%)	3 (4.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	21 (32.8%)	6 (9.4%)	1 (1.6%)
理系への関心は全くなかった	19 (1.26)	0 (0.0%)	1 (5.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (36.8%)	3 (15.8%)	0 (0.0%)

来場目的も理系への関心の度合いで区分して見ると、イベント参加以前から理系に関心があった者については、来場の動機として「理系の仕事への興味があった」が多い（51.6%）。

理系への関心があまりなかった者、全くなかった者については、「参加を勧められた」という回答がそれぞれ 47.7%、57.9%で最も多く「実験教室に興味があった」もそれぞれ 36.9%、47.4%と一定の割合を占めている（図表 13）。

図表 13　児童・生徒　来場した目的（理系への関心の度合い別　複数回答）



(2)保護者

保護者について、理系への関心の度合いで区分して、イベントを知った経緯をみると、関心の有無に関わらず「(子どもが) 通っている学校で配布されたプリント・チラシ」が最も多い。「理系への関心はあまりなかった」層の特徴としては、「新聞記事」「家族から聞いた」の回答割合の高さが挙げられる (図表 14)。

図表 14　保護者　イベントを知った経緯 (理系への関心の度合い別、複数回答)

	全体	通っている学校で配布されたプリント・チラシ	学習塾・予備校で配布されたプリント・チラシ	大学で配布されたチラシ	その他イベントで配布されたプリント・チラシ	自治体のホームページ	自治体の広報紙	自治体の広報SNS (フェイスブック・ツイッター・メールマガジン)	図書館や公民館等、自治体の公共施設に置かれていた・配布されていたチラシ	商店・商業施設で掲示・配布されていたチラシ	自治体のタウン誌	駅に掲示されたポスター
全体	189 (1.29)	87 (46.0%)	5 (2.6%)	1 (0.5%)	3 (1.6%)	16 (8.5%)	17 (9.0%)	16 (8.5%)	12 (6.3%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
今日のイベント以前から理系に関心があった	112 (1.30)	55 (49.1%)	3 (2.7%)	0 (0.0%)	1 (0.9%)	9 (8.0%)	12 (10.7%)	11 (9.8%)	7 (6.3%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
理系への関心はあまりなかった	62 (1.26)	24 (38.7%)	2 (3.2%)	0 (0.0%)	1 (1.6%)	6 (9.7%)	3 (4.8%)	5 (8.1%)	4 (6.5%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
理系への関心は全くなかった	15 (1.27)	8 (53.3%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

	全体	町内放送	新聞記事	新聞折込チラシ	テレビ・ラジオ (ケーブルテレビ・コミュニティFM含む)	内閣府のホームページ	内閣府のメールマガジン	上記以外のホームページ	家族から聞いた	友人から聞いた	その他
全体	189 (1.29)	4 (2.1%)	12 (6.3%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	9 (4.8%)	2 (1.1%)	1 (0.5%)	21 (11.1%)	13 (6.9%)	20 (10.6%)
今日のイベント以前から理系に関心があった	112 (1.30)	3 (2.7%)	5 (4.5%)	1 (0.9%)	0 (0.0%)	6 (5.4%)	2 (1.8%)	1 (0.9%)	7 (6.3%)	7 (6.3%)	15 (13.4%)
理系への関心はあまりなかった	62 (1.26)	1 (1.6%)	7 (11.3%)	1 (1.6%)	0 (0.0%)	3 (4.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	11 (17.7%)	5 (8.1%)	4 (6.5%)
理系への関心は全くなかった	15 (1.27)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (20.0%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)

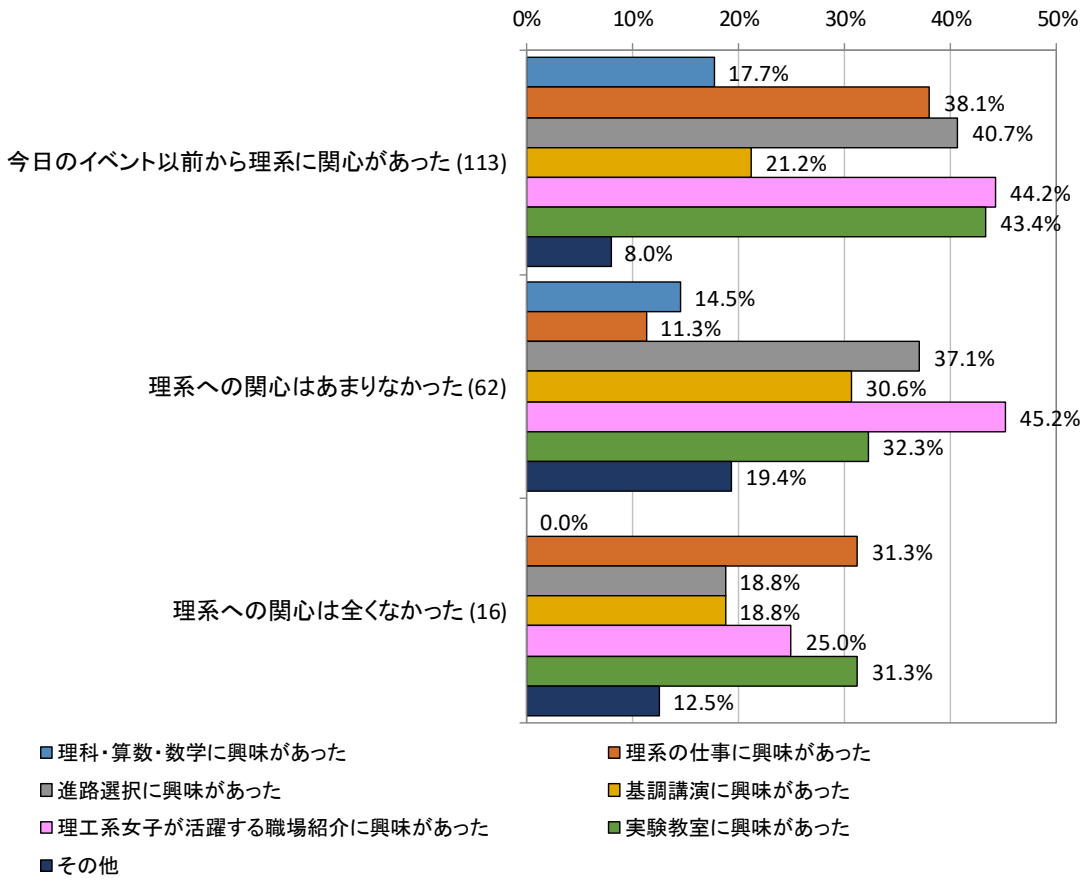
以上を踏まえると、児童・生徒向けのアプローチとしては、学校を通した広報 (チラシの配布) によって周知が達成できるが、特に理系に関心がない、または関心があまりない層にアプローチをする場合は、家族からの働きかけも有効である。

保護者向けのアプローチにおいても、学校を通した広報が有効となるほか、新聞記事も保護者の目に触れ、参加を促す効果が一定程度期待できると考えられる。

保護者について、理系への関心の度合い別に来場目的をみると、「理工系女子が活躍する職場紹介[2]」「実験教室」が多く挙げられている点は、共通の傾向である。

イベント参加以前から理系に関心があった者の特徴として、理系の仕事（38.1%）が多い。また、理系への関心があまりなかった者の特徴として、基調講演（30.6%）が比較的多い（図表 15）。

図表 15　保護者　来場した目的（理系への関心の度合い別　複数回答）



[2] 以降、「職場紹介」とする

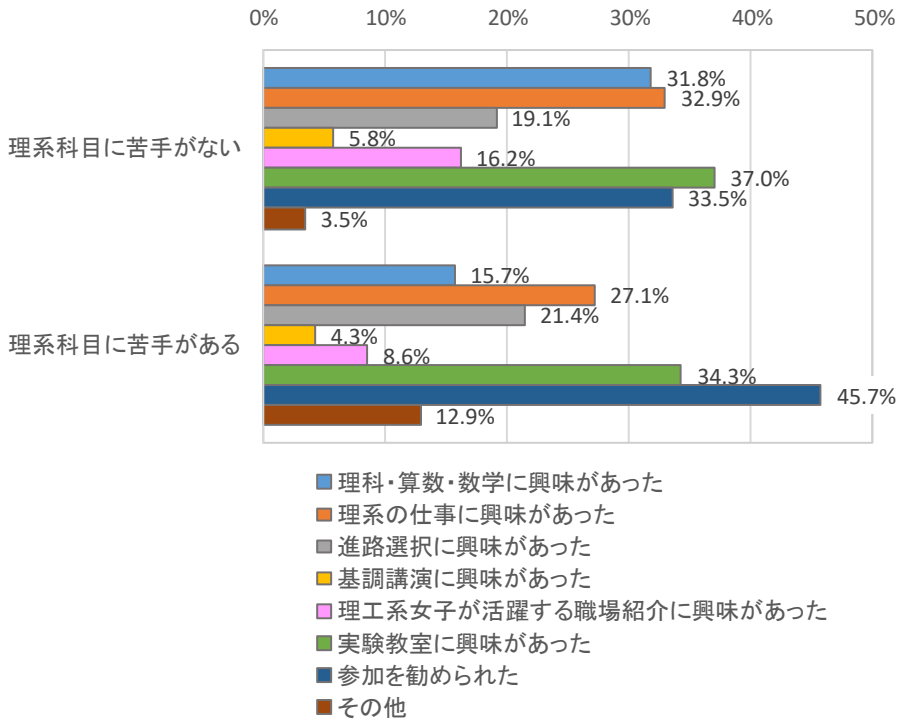
3－2－4　理系科目での苦手の有無による特徴（児童・生徒）

児童・生徒において、理系科目（算数・数学及び理科）に苦手科目がない者とある者とで、イベントの来場目的を比較すると、苦手科目がない者は実験教室（37.0%）が最も多く、参加を勧められた（33.5%）、理系の仕事（32.9%）が続く。

一方で苦手科目がある者は、参加を勧められたという回答が最も多く（45.7%）、当人以外の外部の働きかけが来場動機になった場合が多い。以下、実験教室（34.3%）、理系の仕事（27.1%）が続く。

苦手科目の有無にかかわらず、「実験教室」「理系の仕事」については一定の興味を持たれており、これらはイベント参加を促す効果があると考えられる（図表 16）。

図表 16　児童・生徒　来場した目的（理系への苦手科目の有無別、複数回答）



3－3　協力団体の選定及び依頼

職場紹介や実験教室における協力団体の選定及び依頼は、開催地の地方公共団体が行った。多くは男女共同参画行政を所管する部署から地方公共団体内に立地する企業や団体に依頼し、協力いただいた。なお、男女共同参画行政を所管する部署と企業や団体との関係性によっては、商工部門の協力を得て依頼したケースもある。

＜依頼事例（花巻市）＞

・条件に合致する職場紹介や実験教室の協力団体の選定について、市の商工労政課（職場紹介の依頼候補が、当該課とのネットワークを有していた）に協力を依頼し、同部署の職員同席の下、イベントについての説明や打診を行った。

・実験教室の大学への協力依頼にあたっては、事業趣旨を鑑み、STEM に関する様々な分野の実験を扱いたい旨を説明し、1 つの大学で複数の学部に協力いただくこととし、3 領域の実験を実施することができた。

他方で、比較的小規模な地方公共団体では、協力先を広域で検討し、企業・団体の選定を行ったケースもみられる。

＜依頼事例（琴浦町）＞

・依頼にあたっては、日頃から町と連携関係のある団体（県内の建設産業で働く女性の団体）関係者に相談し、理工系女子が活躍している企業として、町外（県内）の情報通信業の会社の紹介を受けた。地域の課題解決に取り組む会社ということもあり、イベントの趣旨に賛同いただき、協力を得ることができた。

・実験の依頼先についても、上記の団体のネットワークを活用することで、大学等から協力を得て、建築学に関する実験を行うことができた。

第4章 効果検証（来場による効果の検証）

4－1　イベントの満足度

4－1－1　児童・生徒

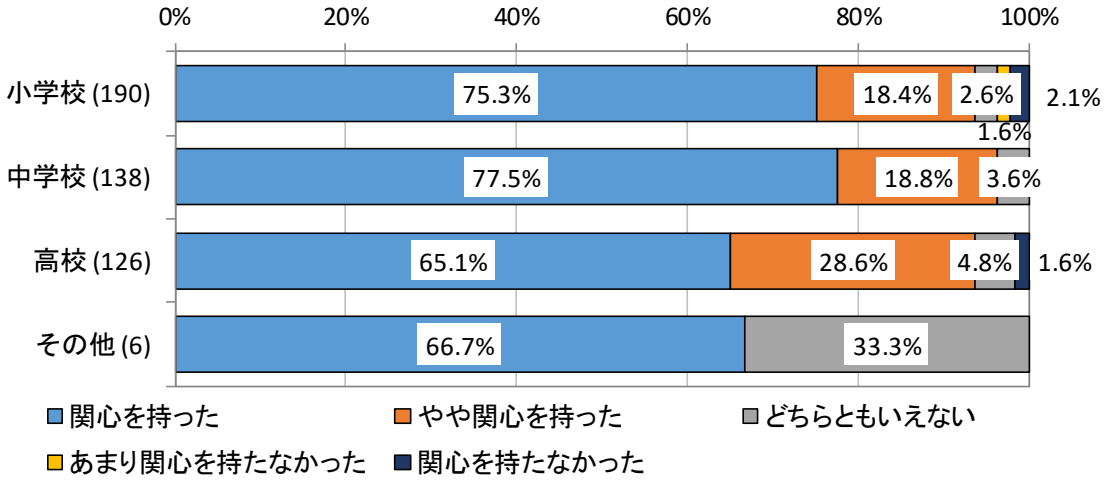
児童・生徒が理系分野の進路選択に関心を持つきっかけとなったプログラムがあったかどうか、イベントのプログラムごとに尋ねた結果について述べる。

実験教室については、小学生から高校生までのいずれも「関心を持った」が 60%を超えており「やや関心を持った」を合わせると 90%以上となっている（図表 17）。

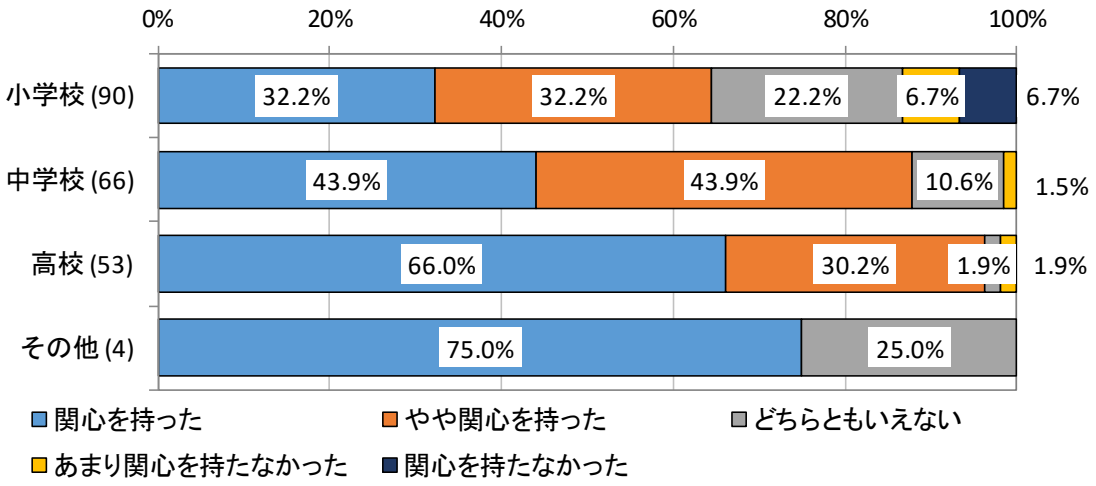
基調講演については、学年が高いほど「関心を持った」「やや関心を持った」が高く、これらを合わせると高校生 96.2%、中学生は 87.8%、小学生は 64.4%が該当する（図表 18）。

職場紹介については「関心を持った」「やや関心を持った」を合わせると高校生は 88.9%、中学生は 87.7%が該当し、高い関心を得ているが、小学生では 66.7%に留まっている（図表 19）。

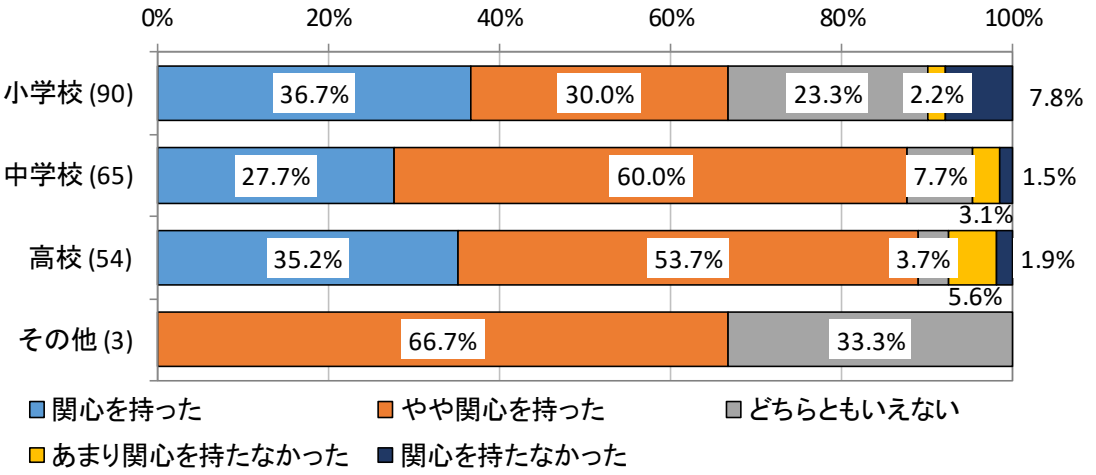
図表 17　児童・生徒　理系分野の進路選択に関心を持つきっかけとなったプログラム-実験教室（複数の実験教室を開催した場合はのべ参加人数を母数としている）



図表 18　児童・生徒　理系分野の進路選択に関心を持つきっかけとなったプログラム-基調講演



図表 19　児童・生徒　理系分野の進路選択に関心を持つきっかけとなったプログラム-職場紹介



4－1－2　保護者

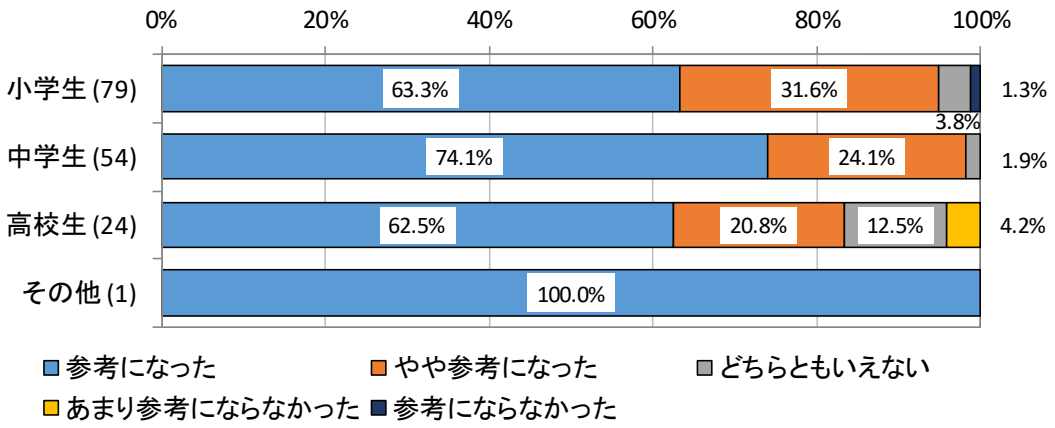
保護者が、イベントについて子の進路を考える上で参考になったかを項目別にみる。

基調講演については、小学生～高校生の保護者いずれも「参考になった」「やや参考になった」を合わせると 80%以上であり、特に小中学生の保護者では 90%以上である（図表 20）。

実験教室については、小学生～高校生の保護者いずれも「参考になった」「やや参考になった」を合わせると 90%以上となっており、全体的に高い割合である（図表 21）。

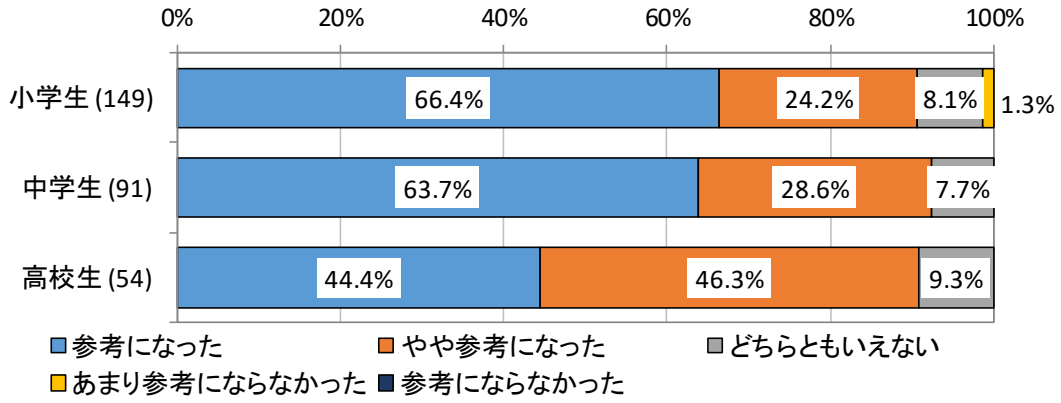
職場紹介についても、小学生～高校生の保護者いずれも「参考になった」「やや参考になった」を合わせると 80%以上と高い（図表 22）。

図表 20　保護者　子どもが進路を考える上で参考になったか―基調講演

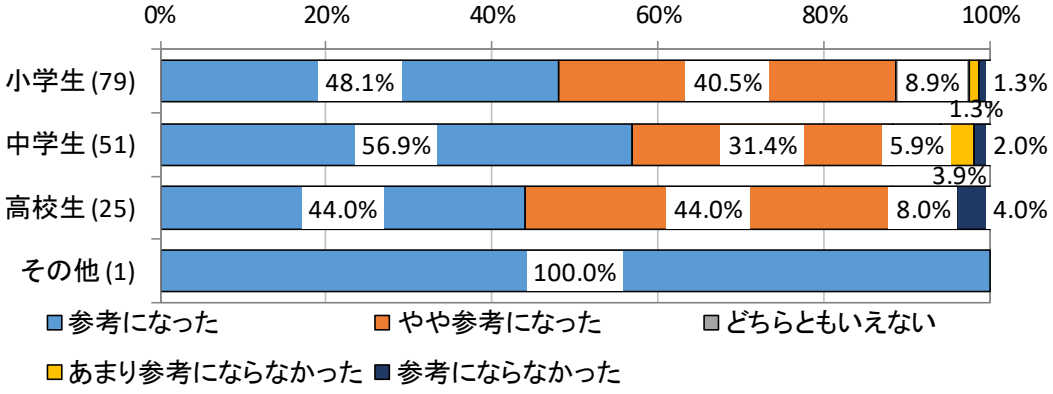


図表 21　保護者　子どもが進路を考える上で参考になったか―実験教室

（複数の実験教室を開催した場合はのべ参加人数を母数としている）



図表 22　保護者　子どもが進路を考える上で参考になったか―職場紹介



4－2　実験教室の評価

実験教室については、実験内容毎にアンケートを行い、参加者の評価を得た。参考として以下に、児童生徒、保護者のいずれにおいても特に高い評価であった「謎のお肉の DNA 実験」、「走る、跳ぶ、昇る液滴」「渡良瀬川の銅を調べよう」について、実施内容を以下に示す。

①謎のお肉の DNA 鑑定

食肉等から DNA を抽出し、専門的な機器・器具を使いながら、その DNA がどんな生物の DNA なのかを調べる実験を行った。

幅広い年齢の受講者（児童・生徒）に対応するため、担当講師を 2 名配置し、同一テーマにおいて比較的簡単な実験と高度な実験の 2 群を分けて実験を行った（使用する道具も、使いやすさ等を考慮して各群に違うものを用意）。これにより、比較的難易度の高い実験テーマでも参加者が理解しやすい、満足度が高い実験とすることができたものと考えられる。また、形に残る「テキスト」を用意し、参加者に持ち帰ってもらうことにより、後で実験に参加したことを振り返るきっかけを提供した。

（協力機関：公益財団法人かずさ DNA 研究所）

②走る、跳ぶ、登る液滴

温度の異なる金属板に水滴を滴下させ、その蒸発までの時間を測定することにより、ライデンフロスト効果（100 度台前半の金属板に滴下するよりも、300 度の金属板に滴下する方が、蒸発までに時間がかかる）を確認する実験を行った。

本教室では、実験と映像資料を併用することによって、実験教室の効果を高めた。まず、参加者が手を動かす実験としては、ライデンフロスト効果を生で体験し、物理現象の面白さを認識していただく内容となっている。また、このような現象を体験した上で、液

滴が斜面・壁面を下から上に上がる物理実験の資料映像をプロジェクタに投影することで、「基礎を実験、応用を資料映像」の形で提供する学習機会とし、単に実験をして楽しんで終わりとならないような形式とした。（協力機関：弘前大学）

③渡良瀬川の銅を調べよう

イベント会場から数百メートルの所に位置する渡良瀬川の土を用いて、実験を行った。

実験は、川の土の成分に銅がどの程度含まれているのか、試薬を用いて検出するものである。検出結果が試薬の測定範囲を超えた場合には、希釈して再検出を行い、銅の含有量について計算を行う内容となっており、参加者が手と頭を使って実験に参加した。また、足尾銅山鉱毒事件の経緯等も紹介し、参加者が地域の歴史についても触れる機会とした。

その後、川の土（県内のダムの体積土壌）の量から推測される、抽出できる銅の量と、その作業にかかる手間等を勘案して、「川の水から銅を取り出し販売する事業」が成り立ち得るのかどうかの検討・意見発表を行った。かつての地域課題であった事柄を題材にした実験を行い、実験結果を出すことに留まらず、事業が成り立つのかどうか、といった活用方策までを検討することで、科学の意義を再認識できる内容となっている。

（協力機関：群馬大学）

次頁以降に、すべての実験教室についてのアンケート結果を示す（図表 23、図表 24）。

図表 23　児童生徒　理系分野の進路選択に関心を持つきっかけとなったプログラムはありましたか（会場別実験別集計）

	木更津	琴浦	南箕輪	刈谷	古賀	舞鶴	花巻	長崎	桐生	弘前
	謎のお肉のDNA実験	レオナルドの橋	3D－CADによるものづくり	モーターと電気回路の仕組み	空気のリサイクル	初めて触れるロボットプログラミング	電気と磁気で物を動かすことを体験	360度カメラ、オリジナルエコバッグ・紙アプリ	渡良瀬川の銅を調べる	実感するでんぷんの成分と食感
関心を持った	13 （ 100.0%）	16 （ 76.2%）	10 （ 58.8%）	3 （ 100.0%）	8 （ 61.5%）	10 （ 76.9%）	22 （ 56.4%）	19 （ 95.0%）	2 （ 66.7%）	33 （ 82.5%）
やや関心を持った	0 （ 0.0%）	4 （ 19.0%）	7 （ 41.2%）	0 （ 0.0%）	3 （ 23.1%）	2 （ 15.4%）	15 （ 38.5%）	0 （ 0.0%）	1 （ 33.3%）	7 （ 17.5%）
どちらともいえない	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	1 （ 7.7%）	1 （ 7.7%）	2 （ 5.1%）	1 （ 5.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）
あまり関心を持たなかった	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）
関心を持たなかった	0 （ 0.0%）	1 （ 4.8%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	1 （ 7.7%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）
合計	13 （ 100.0%）	21 （ 100.0%）	17 （ 100.0%）	3 （ 100.0%）	13 （ 100.0%）	13 （ 100.0%）	39 （ 100.0%）	20 （ 100.0%）	3 （ 100.0%）	40 （ 100.0%）

	木更津	琴浦	南箕輪	刈谷	古賀	舞鶴	花巻	長崎	桐生	弘前
	低温の世界	圧電光うちわ	水溶液からのリン酸二水素アンモニウム結晶の育成		乾燥空気とふつうの空気	足し算から考えるアルゴリズム	VTuberを体験しよう			走る、跳ぶ、登る液滴
関心を持った	5 （ 83.3%）	13 （ 61.9%）	10 （ 62.5%）		9 （ 64.3%）	6 （ 46.2%）	28 （ 70.0%）			36 （ 83.7%）
やや関心を持った	1 （ 16.7%）	5 （ 23.8%）	6 （ 37.5%）		2 （ 14.3%）	4 （ 30.8%）	7 （ 17.5%）			7 （ 16.3%）
どちらともいえない	0 （ 0.0%）	1 （ 4.8%）	0 （ 0.0%）		2 （ 14.3%）	2 （ 15.4%）	4 （ 10.0%）			0 （ 0.0%）
あまり関心を持たなかった	0 （ 0.0%）	1 （ 4.8%）	0 （ 0.0%）		0 （ 0.0%）	1 （ 7.7%）	1 （ 2.5%）			0 （ 0.0%）
関心を持たなかった	0 （ 0.0%）	1 （ 4.8%）	0 （ 0.0%）		1 （ 7.1%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）			0 （ 0.0%）
合計	6 （ 100.0%）	21 （ 100.0%）	16 （ 100.0%）		14 （ 100.0%）	13 （ 100.0%）	40 （ 100.0%）			43 （ 100.0%）

	木更津	琴浦	南箕輪	刈谷	古賀	舞鶴	花巻	長崎	桐生	弘前
	金属探知機を作って宝探し！！	ユニークなスライムを作ろう	無線ブロックを使った体感プログラミング				虹色を試験管で作ってみよう			シャボン玉で火を消そう
関心を持った	8 （ 72.7%）	14 （ 66.7%）	12 （ 75.0%）				32 （ 82.1%）			30 （ 75.0%）
やや関心を持った	2 （ 18.2%）	5 （ 23.8%）	3 （ 18.8%）				6 （ 15.4%）			9 （ 22.5%）
どちらともいえない	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	1 （ 6.3%）				1 （ 2.6%）			1 （ 2.5%）
あまり関心を持たなかった	0 （ 0.0%）	1 （ 4.8%）	0 （ 0.0%）				0 （ 0.0%）			0 （ 0.0%）
関心を持たなかった	1 （ 9.1%）	1 （ 4.8%）	0 （ 0.0%）				0 （ 0.0%）			0 （ 0.0%）
合計	11 （ 100.0%）	21 （ 100.0%）	16 （ 100.0%）				39 （ 100.0%）			40 （ 100.0%）

	木更津	琴浦	南箕輪	刈谷	古賀	舞鶴	花巻	長崎	桐生	弘前
	君にも作れる光通信									
関心を持った	5 （ 50.0%）									
やや関心を持った	4 （ 40.0%）									
どちらともいえない	1 （ 10.0%）									
あまり関心を持たなかった	0 （ 0.0%）									
関心を持たなかった	0 （ 0.0%）									
合計	10 （ 100.0%）									

図表 24　保護者　お子様が進路を考える上で参考になりましたか―実験教室（会場別実験別集計）

	木更津	琴浦	南箕輪	刈谷	古賀	舞鶴	花巻	長崎	桐生	弘前
	謎のお肉のDNA実験	レオナルドの橋	3D－CADによるものづくり	モーターと電気回路の仕組み	空気のリサイクル	初めて触れるロボットプログラミング	電気と磁気で物を動かすことを体験	360度カメラ、オリジナルエコバッグ・紙アプリ	渡良瀬川の銅を調べる	実感するでんぷんの成分と食感
参考になった	13 （ 86.7%）	9 （ 64.3%）	8 （ 57.1%）	3 （ 75.0%）	3 （ 42.9%）	6 （ 60.0%）	8 （ 38.1%）	11 （ 64.7%）	19 （ 95.0%）	18 （ 72.0%）
やや参考になった	1 （ 6.7%）	5 （ 35.7%）	5 （ 35.7%）	1 （ 25.0%）	2 （ 28.6%）	4 （ 40.0%）	11 （ 52.4%）	4 （ 23.5%）	0 （ 0.0%）	6 （ 24.0%）
どちらともいえない	1 （ 6.7%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	2 （ 28.6%）	0 （ 0.0%）	2 （ 9.5%）	1 （ 5.9%）	1 （ 5.0%）	0 （ 0.0%）
あまり参考にならなかった	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	1 （ 7.1%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	1 （ 5.9%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）
参考にならなかった	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	1 （ 4.0%）
合計	15 （ 100.0%）	14 （ 100.0%）	14 （ 100.0%）	4 （ 100.0%）	7 （ 100.0%）	10 （ 100.0%）	21 （ 100.0%）	17 （ 100.0%）	20 （ 100.0%）	25 （ 100.0%）

	木更津	琴浦	南箕輪	刈谷	古賀	舞鶴	花巻	長崎	桐生	弘前
	低温の世界	圧電光うちわ	水溶液からのリン酸二水素アンモニウム結晶の育成		乾燥空気とふつうの空気	足し算から考えるアルゴリズム	VTuberを体験しよう			走る、跳ぶ、登る液滴
参考になった	5 （ 55.6%）	5 （ 35.7%）	9 （ 64.3%）		6 （ 66.7%）	6 （ 60.0%）	9 （ 45.0%）			22 （ 84.6%）
やや参考になった	3 （ 33.3%）	8 （ 57.1%）	2 （ 14.3%）		1 （ 11.1%）	4 （ 40.0%）	7 （ 35.0%）			3 （ 11.5%）
どちらともいえない	1 （ 11.1%）	1 （ 7.1%）	3 （ 21.4%）		2 （ 22.2%）	0 （ 0.0%）	4 （ 20.0%）			1 （ 3.8%）
あまり参考にならなかった	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）		0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）			0 （ 0.0%）
参考にならなかった	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）		0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）			0 （ 0.0%）
合計	9 （ 100.0%）	14 （ 100.0%）	14 （ 100.0%）		9 （ 100.0%）	10 （ 100.0%）	20 （ 100.0%）			26 （ 100.0%）

	木更津	琴浦	南箕輪	刈谷	古賀	舞鶴	花巻	長崎	桐生	弘前
	金属探知機を作って宝探し！！	ユニークなスライムを作ろう	無線ブロックを使った体感プログラミング				虹色を試験管で作ってみよう			シャボン玉で火を消そう
参考になった	6 （ 60.0%）	7 （ 50.0%）	8 （ 61.5%）				8 （ 38.1%）			19 （ 86.4%）
やや参考になった	3 （ 30.0%）	6 （ 42.9%）	4 （ 30.8%）				10 （ 47.6%）			2 （ 9.1%）
どちらともいえない	1 （ 10.0%）	1 （ 7.1%）	1 （ 7.7%）				3 （ 14.3%）			1 （ 4.5%）
あまり参考にならなかった	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）				0 （ 0.0%）			0 （ 0.0%）
参考にならなかった	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）	0 （ 0.0%）				0 （ 0.0%）			0 （ 0.0%）
合計	10 （ 100.0%）	14 （ 100.0%）	13 （ 100.0%）				21 （ 100.0%）			22 （ 100.0%）

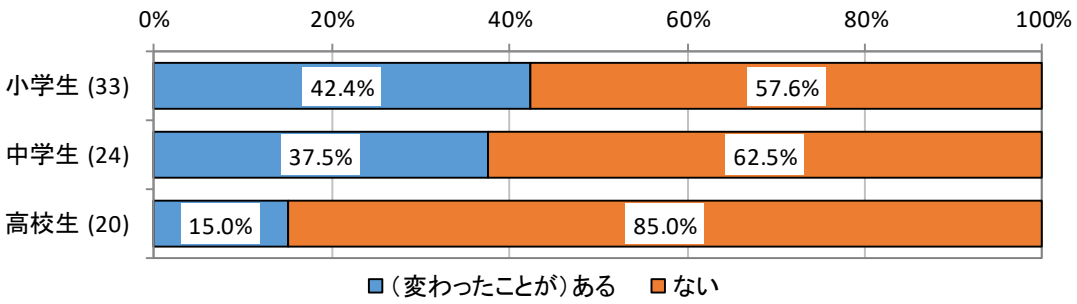
	木更津	琴浦	南箕輪	刈谷	古賀	舞鶴	花巻	長崎	桐生	弘前
	君にも作れる光通信									
参考になった	6 （ 66.7%）									
やや参考になった	2 （ 22.2%）									
どちらともいえない	1 （ 11.1%）									
あまり参考にならなかった	0 （ 0.0%）									
参考にならなかった	0 （ 0.0%）									
合計	9 （ 100.0%）									

4－3　イベント終了後の取組（自宅学習など）

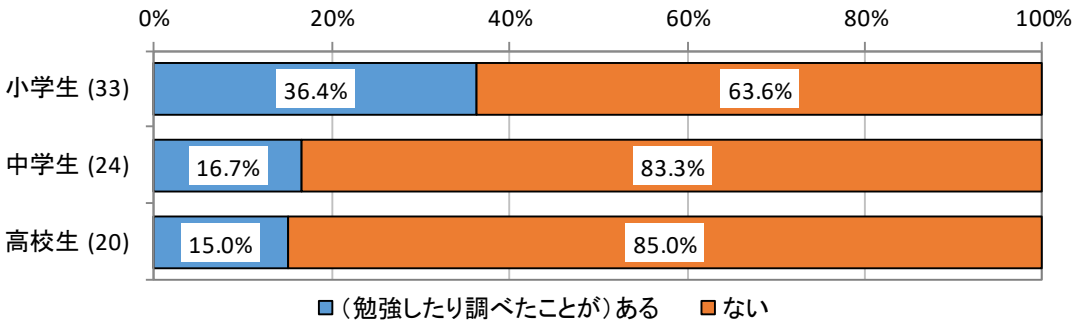
4－3－1　児童・生徒

児童生徒のイベント後の行動をみると、低学年ほど、イベントをきっかけにした勉強を行う等の行動への変化があった。小学生では、42.4%が、勉強・学習に関する考え方や行動に変化があり（図表 25）、36.4%が、イベントに影響され、自分で特に勉強したり調べたりしたと回答している（図表 26）。

図表 25　児童・生徒　イベントに参加して以降、勉強・学習に関する考え方や行動で変わったことはあるか



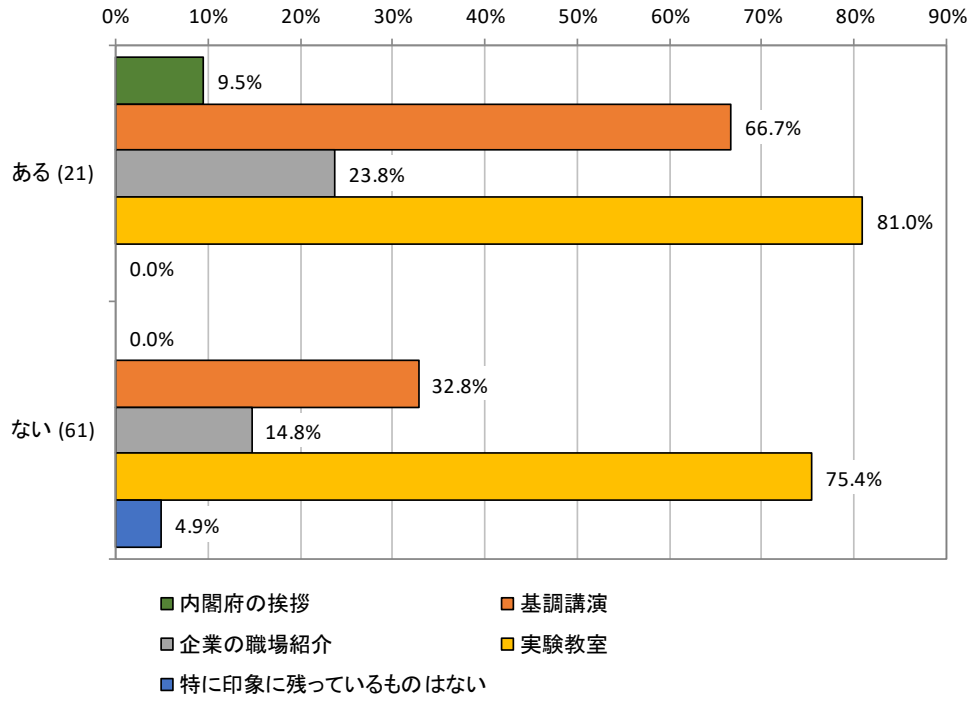
図表 26　児童・生徒　イベントに参加したことに影響されて、自分で特に勉強したり調べたりしたことはあるか



イベントに参加したことに影響されて、自分で特に勉強したり調べたりしたことの有無に関わらず、今でも印象に残っているプログラムは「実験教室」が最も多い（勉強ありの場合：81.0%　勉強なしの場合：75.4%）。

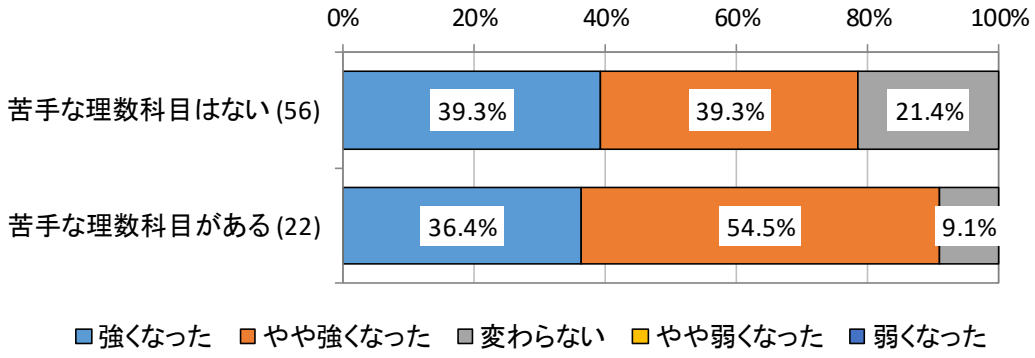
事後に勉強等をした者の特徴として、今でも印象に残っているプログラムに基調講演を挙げる回答が多く（66.7%）、STEM Girls Ambassadors 等によるロールモデルの紹介が、自発的な勉強等に影響している可能性がある（図表 27）。

図表 27　児童・生徒　イベントに参加したことに影響されて、自分で特に勉強したり調べたりしたことはあるか（印象に残っているプログラム別）



なお、理数系科目における苦手科目の有無別に、イベントに参加した直後と今とで、理系に対する興味や関心に変化があるかをたずねたところ、苦手科目の有無にかかわらず興味や関心が「強くなった」「やや強くなった」の回答が多数を占めた。特に、苦手な理数科目がある層では、22 名中 20 名（90.9%）が「強くなった」「やや強くなった」と回答しており、本イベントは、苦手な理数科目を持つ者の理系への興味関心を高めることにも有効であった（図表 28）。

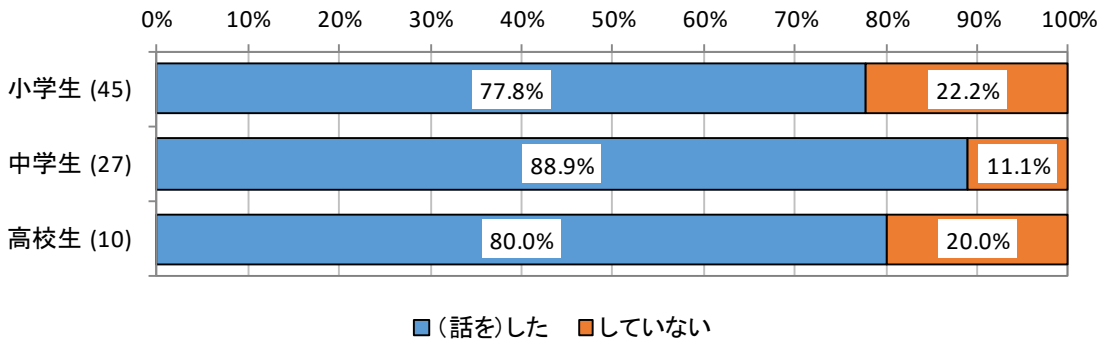
図表 28　児童・生徒　理数科目における苦手科目の有無（イベント参加直後と今との間での、理系に対する興味関心の変化別）



4－3－2　保護者

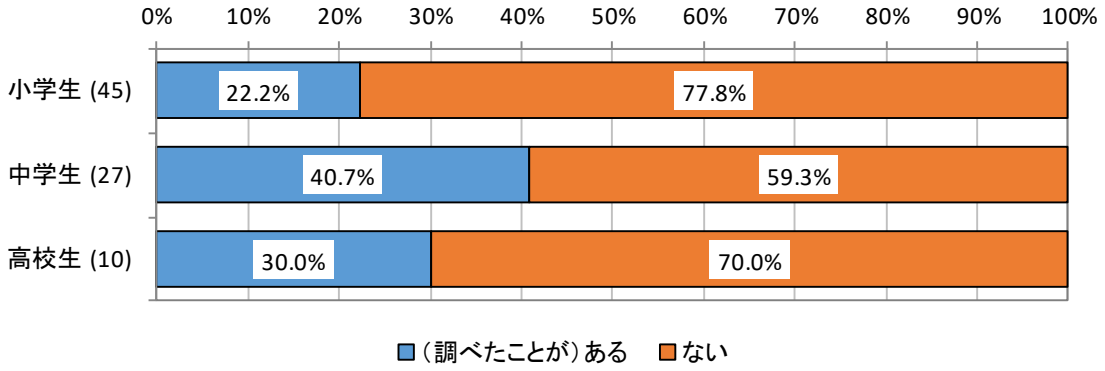
保護者に対し、本イベントに参加したことについて家庭で話をしたかをたずねたところ、子の年代を問わず 7 割以上が「(話を) した」と回答している。特に中学生の保護者では 88.9%で高い（図表 29)。

図表 29　保護者　本イベントに参加したことについて家庭で話をしたか



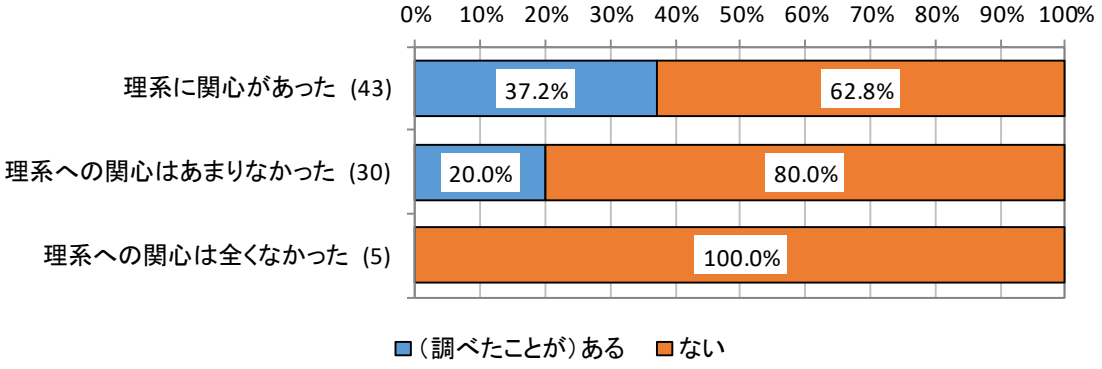
イベントに参加したことにより、保護者自身が理系分野について調べたり、子の理系分野における進路選択について調べたかについて、小学生の保護者では「(調べたことが) ある」が 22.2%であったのに対し、中学生の保護者では 40.7%、高校生の保護者では 30.0%が「ある」と回答している。小学生についてはまだ進路の検討をするのには尚早な場合もあることから、小学生の保護者においては比較的実施率が低かったものと考えられる（図表 30)。

図表 30　保護者　本イベントに参加したことにより、理系分野について調べたり、子の理系分野における進路選択について調べたか



これを、理系への関心度合い別にみると、「理系に関心があった」のうち 37.2%が、イベント後に理系分野や進路選択に関する調べものをしているのに対し、「理系への関心があまりなかった」では、20.0%に留まっており、理系への関心度合いが低い場合は、イベント後の行動にまで影響のある方は少なかった（図表 31）。

図表 31　保護者　理系への関心度合い（本イベントに参加したことにより、自身が理系分野について調べたり、子の理系分野における進路選択について調べたかの別）



4－4　イベント終了後の具体的な変化に関する自由回答結果

アンケートにおいては、多くの児童・生徒が、イベント終了後に「勉強・学習に関する考え方や行動で変わったこと」があると回答している。

ここでは特に、「（理数系科目に）苦手な科目がある」とした児童・生徒の、「勉強・学習に関する考え方や行動で変わったこと」についての具体的な内容に着目する（図表 32）。

全般に、勉強への意欲が高まったとの回答がみられたほか、中学生や高校生では、進路選択について意識した回答も見られた。例えば中学生２の回答は、登壇した職場紹介担当者を一種のロールモデルとして捉えており、理科を勉強することそのものの意識にも変化があったと捉えられる。

図表 32　本イベントに参加したことにより、勉強・学習に関する考え方や行動が変わったか（理数系科目に苦手科目がある者の回答抜粋）

小学生１	実験に興味が出た。
小学生２	たくさん勉強して、得意をのばす。
中学生１	何かを覚える時に、声に出して読むことを意識するようになった。
中学生２	今までは、理科は好きな教科の一つとしてしか見ていませんでしたが、興味を突き詰めることで将来多くのことができるようになるのだなと思いました。 また、職場紹介の中で私が志望している高校の出身の方がいらっしゃっていて、今の学習や興味が高校や大学、将来の仕事に直結することを実感することができ、まずは目の前のことを頑張っていこうと思いました。
中学生３	学んだことを友達に話した。
中学生４	前よりも真剣に進路を考えて勉強するようになりました。
高校生１	理科への興味が強くなった。
高校生２	理数系の勉強がとても苦だったが、理屈や面白さを見出すことができるようになり、少しだけ楽しくなった。

第5章 総括

5－1　事業の広報手段

今回のイベントを知った経緯をみると、児童・生徒と保護者、また小学生～高校生のいずれでも、学校で配布されたプリント・チラシによる認知が最も多かった。なお、各学校にチラシを送付するだけでなく、配布にあたって児童・生徒に対し、学校教員に補足説明をしていただくことも重要である。イベントの 2 か月前（長期休暇等の状況によっては、それ以上）から広報を開始できるように準備期間を確保し、早期にチラシを作成するとともに、地方公共団体の担当者から学校関係者への直接的な協力依頼を行う等の対応も求められる。

保護者については、学校のみならず、地方公共団体のホームページや広報紙、SNS 等による広報も効果があった。保護者に対しては、学校からの連絡に加えて、地方公共団体からの情報発信による周知も効果があると考えられる（図表 33）。

図表 33　保護者　子どもの学校種別　イベントを知った経緯（再掲）

	全体	通っている学校で配布されたプリント・チラシ	学習塾・予備校で配布されたプリント・チラシ	大学で配布されたチラシ	その他イベントで配布されたプリント・チラシ	自治体のホームページ	自治体の広報紙	自治体の広報SNS（フェイスブック・ツイッター・メールマガジン）	図書館や公民館等、自治体の公共施設に置かれていた・配布されていたチラシ	商店・商業施設で掲示・配布されていたチラシ	自治体のタウン誌	駅に掲示されたポスター
全体	164	89	5	1	1	13	12	13	6	1	0	0
	(1.28)	(54.3%)	(3.0%)	(0.6%)	(0.6%)	(7.9%)	(7.3%)	(7.9%)	(3.7%)	(0.6%)	(0.0%)	(0.0%)
小学生	83	48	1	0	1	4	3	5	5	1	0	0
	(1.23)	(57.8%)	(1.2%)	(0.0%)	(1.2%)	(4.8%)	(3.6%)	(6.0%)	(6.0%)	(1.2%)	(0.0%)	(0.0%)
中学生	57	31	4	0	0	7	5	6	1	0	0	0
	(1.37)	(54.4%)	(7.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(12.3%)	(8.8%)	(10.5%)	(1.8%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
高校生	23	10	0	1	0	2	4	2	0	0	0	0
	(1.26)	(43.5%)	(0.0%)	(4.3%)	(0.0%)	(8.7%)	(17.4%)	(8.7%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	(1.00)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)

	全体	町内放送	新聞記事	新聞折込チラシ	テレビ・ラジオ（ケーブルテレビ・コミュニティFM含む）	内閣府のホームページ	内閣府のメールマガジン	上記以外のホームページ	家族から聞いた	友人から聞いた	その他
全体	164	4	12	4	0	5	1	1	19	9	14
	(1.28)	(2.4%)	(7.3%)	(2.4%)	(0.0%)	(3.0%)	(0.6%)	(0.6%)	(11.6%)	(5.5%)	(8.5%)
小学生	83	4	6	3	0	1	1	0	9	4	6
	(1.23)	(4.8%)	(7.2%)	(3.6%)	(0.0%)	(1.2%)	(1.2%)	(0.0%)	(10.8%)	(4.8%)	(7.2%)
中学生	57	0	3	0	0	4	0	1	7	4	5
	(1.37)	(0.0%)	(5.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(7.0%)	(0.0%)	(1.8%)	(12.3%)	(7.0%)	(8.8%)
高校生	23	0	3	1	0	0	0	0	2	1	3
	(1.26)	(0.0%)	(13.0%)	(4.3%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(8.7%)	(4.3%)	(13.0%)
その他	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	(1.00)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(100.0%)	(0.0%)	(0.0%)

また、新聞に紹介されたことで、多くの参加者の申込に至ったケースもあり、一例をあげるとイベント実施の 10 日前に地元紙に掲載された弘前会場においては、児童・生徒の 20.0%、保護者の32.3%が当該新聞を通じて本イベントを認知した。地元新聞等で行われる地域イベントの紹介欄に掲載されることは、周知において大きな効果がある。この他、地方公共団体による定例の記者会見や記者クラブへの案内も活用すべきである。

なお、一部の地域で実施した事務局による新聞折込チラシを活用した広報は、効果が限定的であった。

5－2　事業の対象者・イベント内容

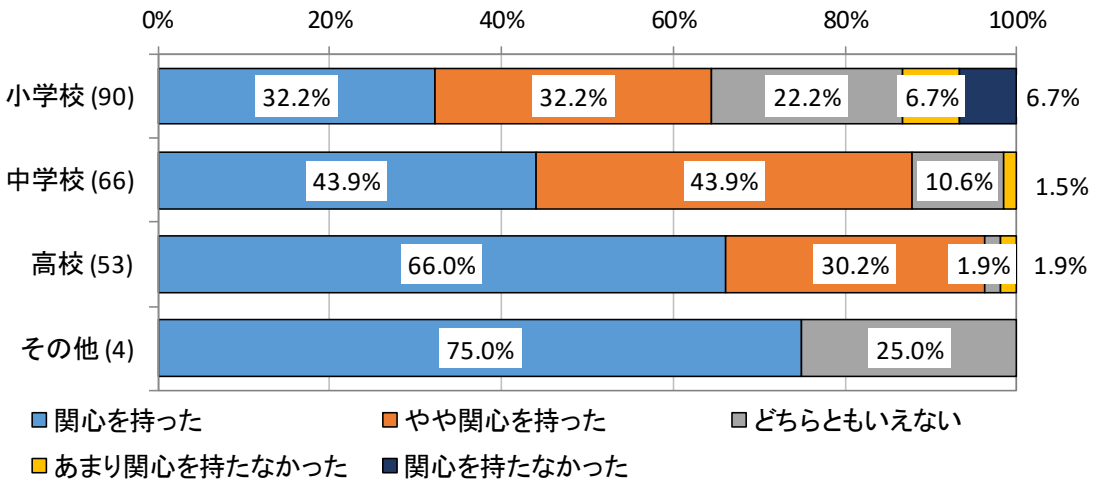
5－2－1　参加者の学校種別イベントの効果

参加した児童・生徒の学校種別の、イベントプログラムにおけるそれぞれへの効果（関心を持ったか）をみると、いずれの参加者も実験教室への関心が高く、中学生・高校生については基調講演への関心も高い。

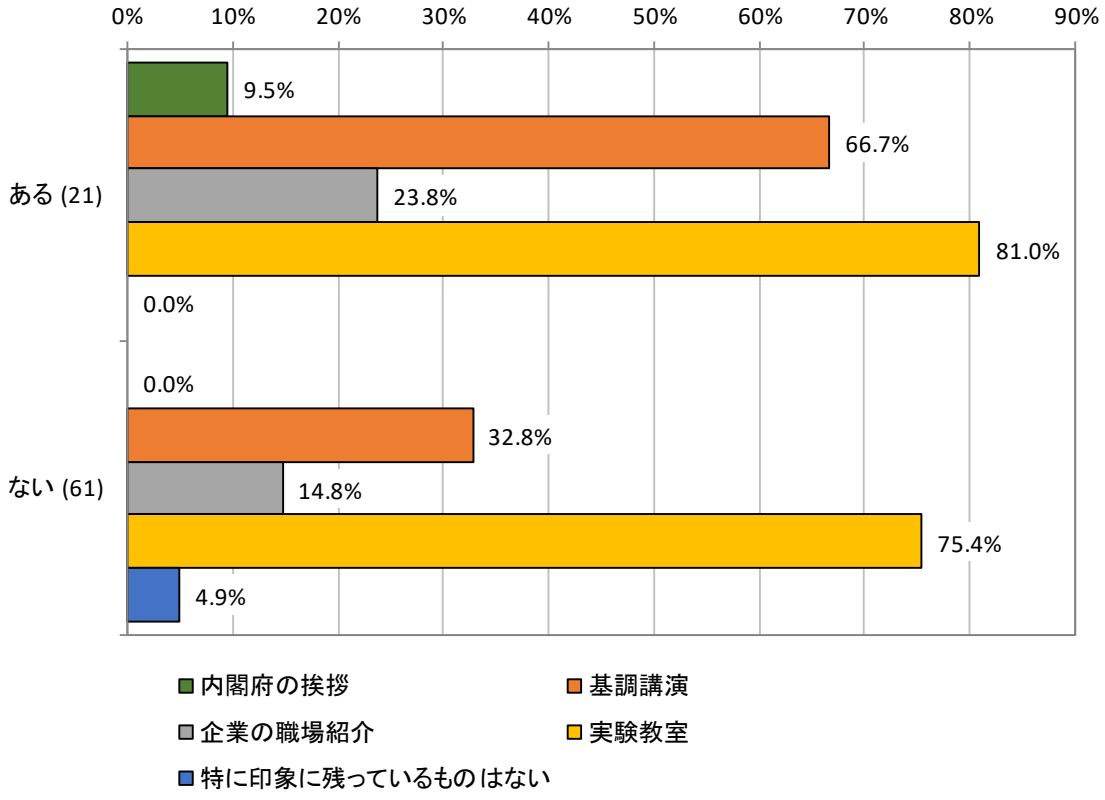
この点、今回実施した基調講演は、ロールモデルの紹介という観点から、STEM Girls Ambassadors の講演を企画したものであるが、中学生・高校生には効果があった一方で、小学生には内容が難しかった、あるいはロールモデルをもとにした将来のイメージが湧きづらかったものと考えられる（図表 34）。

ただし、イベントの参加による影響を受け、事後に勉強等を行っている者のうち 66.7%は、基調講演を「（イベント終了から 2 か月以上経過した）今でも印象に残っている」と回答しており、一定の参加者に対して、強い影響を与えている可能性がある（図表 35）。

図表 34 児童・生徒 理系分野の進路選択に関心を持つきっかけとなったプログラム-基調講演（再掲）



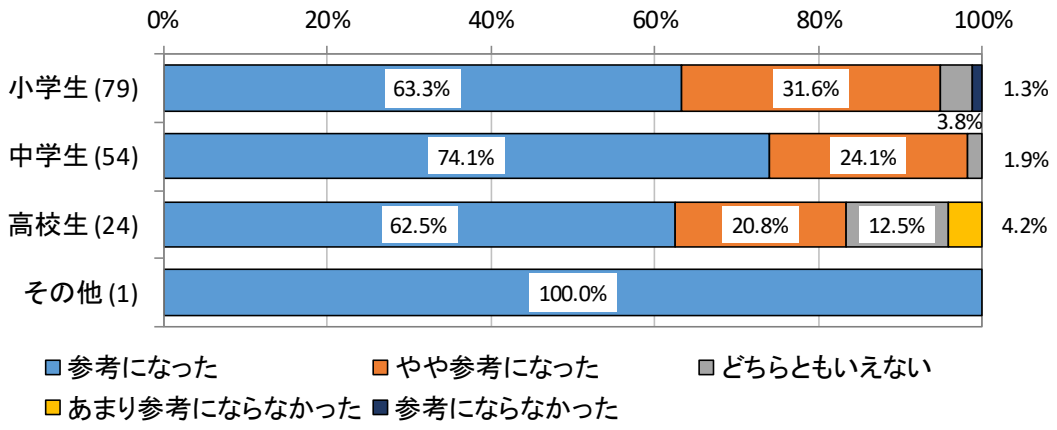
図表 35　児童・生徒　イベントに参加したことに影響されて、実際、自分で特に勉強したり調べたりしたことはあるか（印象に残っているプログラム別、再掲）



また、基調講演は保護者にとっても有意義なプログラムと捉えられる。

基調講演が多くの保護者にとって参考になっている点（図表 36）を考えると、保護者向けのイベント、あるいは高校生・中学生向け（または希望する児童向け）のイベントを行う際には基調講演のようにロールモデルを紹介するプログラムを開催し、小学生を含むイベント（主な参加者が小学生となるイベント）では、実験教室を中心に実施するといった方法が有効であると考えられる。

図表 36　保護者　お子様が進路を考える上で参考になりましたか―基調講演（再掲）

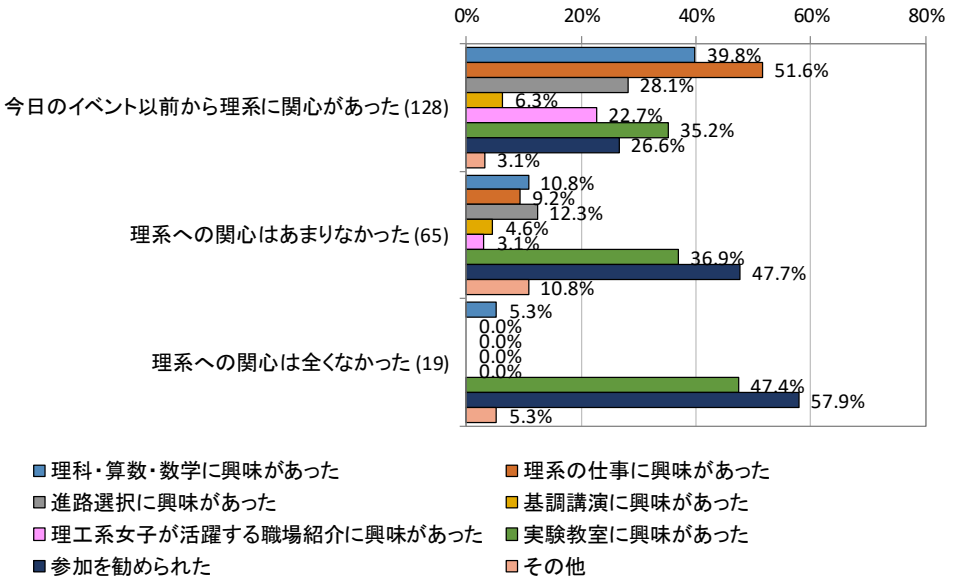


5－2－2　理系への関心度合いが低い児童・生徒の来場を促す動機付け

図表 37 に再掲するように、本イベントは、理系に関心を有している児童・生徒のみならず、多くの理系への関心があまりなかった、または全くなかった児童・生徒の来場にも繋げることができた。

また理系への関心があまりなかった、または全くなかった児童・生徒については、「参加を勧められた」という回答がそれぞれ 47.7%、57.9%で最も多かったことから、学校でのチラシ配布等の、児童・生徒への直接のアプローチによって自発的なイベント参加を促すだけでなく、教員や保護者等へのイベントの紹介、案内も必要である。具体的には、学校でのチラシ配布に際して、学校教員が（イベント趣旨を理解したうえで）積極的に参加を呼び掛けていただく等、準備段階での調整が必要となるほか、地方公共団体のホームページや SNS、広報紙等により、地方公共団体が保護者に対してイベントの開催を直接案内することも重要である。また、イベントのプログラムに関連し、来場動機として「実験教室に興味があった」も多く挙げられていることから、興味をひきやすいプログラムである実験教室の開催が、理系への関心があまりない、全くない層の参加の促進に効果的なものと考えられる。

図表 37　児童・生徒　理系への関心別　イベントへの来場目的（再掲）



5－3　協力団体との連携方法

地域振興や地域の人材不足を解消するためには、それぞれの地域内にあるSTEMの関係分野で女性が活躍する企業・団体に協力を仰ぐことが望ましい。なお、地域内で企業・団体とのネットワークが見つけにくい場合には、近隣の自治体と連携するなどして広域での開催もありうる。

協力先とは密な情報連携を図り、女性の登壇や、参加者の年齢に合わせた実験プログラムの準備など、参加者の構成に合わせたプログラム内容の工夫などの配慮が必要である。

5－4　結びにかえて

生産年齢人口が減少傾向に入り、日本も含めた先進国では理工系女性人材の確保が重要視され、女子生徒等の理工系分野への進路選択の促進に向けや様々な施策が展開されている。

理工系女性人材の確保は、地域のものづくり産業等、理工系人材を必要とする産業、特に先端化の担い手を増やすことになる。

本報告書を参考に、各地方公共団体における女子児童・生徒の理工系分野への進路選択の推進策を通じ、地域振興に役立てていただければ幸いである。

参加者アンケート（児童・生徒　当日用）

このアンケートは、今後の児童・生徒向けや保護者向けのイベント、情報発信等の参考のために実施するものです。ご協力をお願いいたします。
なお、ご記入いただいた情報は、来場者の分析及び、今回のイベントに参加したことについて、概ね３か月後に追加アンケートのご案内をお送りするために使用させていただきます。(氏名・住所・メールアドレスは、追加アンケートのみに使用いたします)

氏名・住所・性別・学年・メールアドレスをご記入ください。

＝氏名＝	＝性別＝ １ 女性　　２ 男性
＝住所＝　（〒　　－　　）	
＝学年＝ １ 小学校 ＿＿＿年　　２ 中学校 ＿＿＿年　　３ 高校 ＿＿＿年　　４ その他（　　）	
＝メールアドレス（ある場合のみ）＝	

問１　今回のイベントを、どのように知りましたか。（○はいくつでも）

１ 通っている学校で配布されたプリント・チラシ	８ 新聞記事（新聞名：　　）
２ 塾で配布されたプリント・チラシ	９ 内閣府のホームページ
３ 進学説明会で配布されたプリント・チラシ	10 内閣府のメールマガジン
４ 木更津市のホームページ	11 テレビ・ラジオ（放送局名　　）
５ 木更津市の広報（ＳＮＳ）・メールマガジン	12 上記以外のホームページ（　　）
６ 図書館や公民館など、木更津市の施設に置かれていた・配布されていたチラシ	13 家族から聞いた
	14 友人から聞いた
７ 商店・商業施設で配布されていたチラシ	15 その他（　　）

問２　今回のイベントに参加した理由は何ですか。（○はいくつでも）

１ 理科・算数・数学に興味があった	５ 理工系女子が活躍する職場紹介に興味があった
２ 理系の仕事に興味があった	６ 実験教室に興味があった
３ 進路選択に興味があった	７ 参加を勧められた（勧めた人：　　）
４ 基調講演に興味があった	８ その他（　　）

問３　今回のイベントはどなたといっしょに来場しましたか。（○はいくつでも）

１ 母親	４ 友人、先輩、後輩
２ 父親	５ おひとり
３ 上記以外の家族（具体的に：　　）	６ その他（　　）

問４　以下の科目はどの程度得意もしくは苦手ですか。（それぞれ○は１つ）

	得意	やや得意	どちらともいえない	やや苦手	苦手
a.　数学・算数	1	2	3	4	5
b.　理科	1	2	3	4	5
c.　国語	1	2	3	4	5
d.　社会	1	2	3	4	5
e.　英語（中学生以上のみ回答）	1	2	3	4	5

問５　今回のイベントについて、理系分野の進路選択に関心を持つきっかけとなったプログラムはありましたか。
（それぞれ○は１つ。ただし、実験教室については参加したもののみ記入してください）

		関心を持った	やや 関心を持った	どちらとも いえない	あまり関心を 持たなかった	関心を もたなかった
1.基調講演		1	2	3	4	5
2. 理工系女子が活躍する職場紹介		1	2	3	4	5
実験教室	3. 謎のお肉の DNA 実験	1	2	3	4	5
	4. 低温の世界	1	2	3	4	5
	5. 金属探知機を作って宝探し！！	1	2	3	4	5
	6. 君にも作れる光通信	1	2	3	4	5

問６　基調講演や理工系女子が活躍する職場紹介で、特に印象に残った話・内容がありましたら、ご記入ください。

問７　今回の実験教室の内容について、良かった点や改善すべき点など、ご自由にご記入ください。

問８　今回のイベントを受けて、あなたの理系への関心についてお聞かせください。

①　理系への関心はイベント参加以前から、もともとありましたか（○をおひとつ）	②　今回のイベント参加により、理系への関心は深まりましたか（○をおひとつ）
１　今日のイベント以前から理系に関心があった ２　理系への関心はあまりなかった ３　理系への関心は全くなかった	１　とても深まった ２　やや深まった ３　特に変わらない

問９　今回のイベント全体を通しての感想やご意見をお聞かせください。

問１０　今後、同様のイベントがあるとしたら「こんな人（会社）の話をきいてみたい」「こんなテーマの話をきいてみたい」「こんな実験をやってみたい」など、あったらよいと思うものがありましたら、以下にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。スタッフにご提出ください。

参加者アンケート（保護者　当日用）

このアンケートは、今後の児童・生徒向けや保護者向けのイベント、情報発信等の参考のために実施するものです。お疲れのところ恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。
なお、ご記入いただいた情報は、来場者の分析及び、今回のイベントに参加したことについて、概ね３か月後に追加アンケートのご案内をお送りするために使用させていただきます。（氏名・住所は、アンケートの実施のみに使用いたします）

あなたとお子様の住所・氏名やご連絡先等についてご記入ください。

＜保護者氏名＞　　＜性別＞ 女　男　その他	＜住所＞　（〒　　－　　）
＜お子様氏名（お子様と一緒に参加の場合のみ記入＞	＜メールアドレス（ある場合のみ記入）＞

問１　本日はどなたといっしょに来場しましたか。（○はいくつでも）

１ 子	３ おひとり
２ 配偶者	４ 上記以外（具体的に：　　）

問２　今回のイベントを、どのように知りましたか。（○はいくつでも）

１ 通っている学校で配布されたプリント・チラシ	８ 新聞記事（新聞名：　　）
２ 塾で配布されたプリント・チラシ	９ 内閣府のホームページ
３ 進学説明会で配布されたプリント・チラシ	10 内閣府のメールマガジン
４ 木更津市のホームページ	11 テレビ・ラジオ（放送局名　　）
５ 木更津市の広報（ＳＮＳ）・メールマガジン	12 上記以外のホームページ（　　）
６ 図書館や公民館など、木更津市の施設に置かれていた・配布されていたチラシ	13 家族から聞いた
	14 友人から聞いた
７ 商店・商業施設で配布されていたチラシ	15 その他（　　）

問３　今回のイベント参加した理由は何ですか。（○はいくつでも）

１ 理科・算数・数学に興味があった	５ 理工系女子が活躍する職場紹介に興味があった
２ 理系の仕事に興味があった	６ 実験教室に興味があった
３ 進路選択に興味があった	７ その他（　　）
４ 基調講演に興味があった	

問４　基調講演や理工系女子が活躍する職場紹介、実験教室はそれぞれ、お子様が進路を考える上で参考になりましたか。それぞれ内容ごとに回答してください。（それぞれに○をおひとつ）

		参考になった	やや参考になった	どちらともいえない	あまり参考にならなかった	参考にならなかった
1．基調講演		1	2	3	4	5
2．理工系女子が活躍する職場紹介		1	2	3	4	5
実験教室	3．謎のお肉の DNA 実験	1	2	3	4	5
	4．低温の世界	1	2	3	4	5
	5．金属探知機を作って宝探し！！	1	2	3	4	5
	6．君にも作れる光通信	1	2	3	4	5

問５　基調講演や理工系女子が活躍する職場紹介で、特に印象に残った話・内容がありましたら、ご記入ください。

問６　今回の実験教室の内容について、良かった点や改善すべき点など、ご自由にご記入ください。

問７　今回のイベントを受けて、ご自身の理系への関心についてお聞かせください。

①　理系への関心はイベント参加以前から、もともとありましたか（○をおひとつ）	②　今回のイベント参加により、理系への関心は深まりましたか（○をおひとつ）
１ 今日のイベント以前から理系に関心があった ２ 理系への関心はあまりなかった ３ 理系への関心は全くなかった	１ とても深まった ２ やや深まった ３ 特に変わらない

問８　今回のイベントを受けて、お子様の進路として、理系は選択肢となるとお考えですか。イベント参加前のお考えと、現在のお考えを合わせてお聞かせください。

①　今回のイベントに参加する以前の考え（○をおひとつ）	②　今回のイベント参加を終えて、現在の考え（○をおひとつ）
１ 理系に行かせたい ２ 進路として１つの選択肢である ３ 進路の選択肢としてはふさわしくない	１ 理系に行かせたい ２ 進路として１つの選択肢である ３ 進路の選択肢としてはふさわしくない ＝上記のように回答した理由をご記入ください＝

問９　今回のイベント全体を通しての感想やご意見をお聞かせください。

問 10　今後、同様のイベントに参加するとしたら「こんな人（会社）の話をきいてみたい」「こんなテーマの話をきいてみたい」「こんな実験をやってみたい」など、あったらよいと思うものがありましたら、以下にご記入ください。

問 11　今後、お子様と保護者が一緒に参加するイベントが開催されるとしたら、どのような開催時期・時間で参加したいですか、それぞれご記入ください。

＜時期＞	＜時間帯＞
１ 夏休み・冬休みなどの長期休暇期間の平日 ２ 夏休み・冬休みなどの長期休暇期間の土曜日 ３ 夏休み・冬休みなどの長期休暇期間の日・祝日 ４ 長期休暇期間以外の平日 ５ 長期休暇期間以外の土曜日 ６ 長期休暇期間以外の日・祝日 ７ その他（　　）	１ 午前中（9～12 時頃） ２ 午後早い時間（13～16 時頃） ３ 午後遅い時間（15～18 時頃） ４ 夜間（18～21 時頃）
＜上記のように回答した理由をご記入ください＞	

ご協力ありがとうございました。スタッフにご提出ください。

参考資料２　フォローアップアンケート調査票

「Let's be a STEM Girl!!～地域から未来の理工系女子を～」
ご来場いただいた方へのアンケート（児童・生徒の方へ）

内閣府主催イベント　「Let's be a STEM Girl!!～地域から未来の理工系女子を～」　にご来場をいただきましてありがとうございました。
ご来場いただいた方に、来場後の行動・考えなどについて、ご質問しております。
ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

なお、質問のはじめに＊印がある場合は、回答を必須にしていますので、必ずご回答ください。

1.氏名をご記入ください。
（※記入いただいたお名前は、事務局がアンケートを回答済みかどうかを確認するためのみに使用しますので、外部に公表されることはございません。）

2.参加した会場を選択してください。

- ◯ 青森県　弘前会場
- ◯ 岩手県　花巻会場
- ◯ 群馬県　桐生会場
- ◯ 千葉県　木更津会場
- ◯ 長野県　南箕輪（上伊那）会場
- ◯ 愛知県　刈谷会場
- ◯ 京都府　舞鶴会場
- ◯ 鳥取県　琴浦会場
- ◯ 福岡県　古賀会場
- ◯ 長崎県　長崎会場

＊3.イベントに参加した直後と今とで、理系に対する興味や関心に変化はありますか。

◯ 強くなった　◯ やや強くなった　◯ 変わらない　◯ やや弱くなった　◯ 弱くなった

＊4.イベントに参加して以降、あなたの勉強・学習に関する考え方や行動で変わったことはありますか。

- ◯ ある
- ◯ ない

「ある」を選んだ方は、理由や、具体的に勉強したり調べたテーマをご記入ください。

* 5.イベントに参加したことに影響されて、実際、自分で特に勉強したり調べたりしたことはありますか

◯ ある

◯ ない

「ある」を選んだ方は、理由や具体的に勉強したり調べたテーマをご記入ください。

* 6.イベントの内容について今でも印象に残っているものはありますか。

☐ 内閣府の挨拶

☐ 実験教室

☐ 基調講演

☐ 特に印象に残っているものはない

☐ 企業の職場紹介

印象に残っている内容について具体的に記入ください。

7.今回のように地元で理工系に関するイベントが開催されるとしたら、聴いてみたい話のテーマ、やってみたい実験等についてご記入ください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。
本アンケートの回答にご協力いただいた方には、後日「理工チャレンジ（リコチャレ）」イメージキャラクター　リコちゃんのオリジナルクリアファイル（非売品）をプレゼントさせていただきます。（1月以降発送予定）
ご希望される方は、発送先の住所についてご記入ください。

※ご来場いただいたご家族複数名にアンケートにご協力いただいた場合、ご回答人数分のクリアファイルをまとめてお送りさせていただく場合がありますので、ご了承ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。「完了」を選択し、アンケートを送信してください。

「Let's be a STEM Girl!!～地域から未来の理工系女子を～」
ご来場いただいた方へのアンケート（保護者・一般観覧の方へ）

内閣府主催イベント　「Let's be a STEM Girl!!～地域から未来の理工系女子を～」　にご来場をいただきましてありがとうございました。ご来場いただいた方に、来場後のお子さまの行動・考えなどについて、ご質問しております。
ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

※なお、冒頭に＊印がある質問は、必須回答項目です。
※次頁で記入いただくお名前は、事務局がアンケートを回答済みかどうかを確認するためのみに使用しますので、外部に公表されることはございません。

1.参加した会場を選択してください。

- ◯ 青森県　弘前会場
- ◯ 岩手県　花巻会場
- ◯ 群馬県　桐生会場
- ◯ 千葉県　木更津会場
- ◯ 長野県　南箕輪（上伊那）会場
- ◯ 愛知県　刈谷会場
- ◯ 京都府　舞鶴会場
- ◯ 鳥取県　琴浦会場
- ◯ 福岡県　古賀会場
- ◯ 長崎県　長崎会場

＊2.あなたについてあてはまることをお選びください。
なお、このアンケートでは、孫、姪、甥なども「お子さま」としてご回答ください。

- ◯ 今回のイベントにお子さまと参加した
- ◯ 今回のイベントには大人のみで参加したが、ご自身には同居のお子さまがいる
- ◯ 今回のイベントには大人のみで参加しており、ご自身には同居のお子さまはいない

次へ

「Let's be a STEM Girl!!～地域から未来の理工系女子を～」
ご来場いただいた方へのアンケート（保護者・一般観覧の方へ）

* 3.ご自身の氏名をご記入ください。

* 4.イベントに一緒に来場したお子さまのお名前をご記入ください。

* 5.今回参加したイベントの内容や感想について、家庭でお子様と話をしましたか。

◯ 話をした　　◯ 話はしていない

「話をした」を選んだ方は、具体的な話の内容についてご記入ください。

* 6.イベントに参加したことによって、あなたご自身が理系分野について調べたことや、お子さまの理系分野における進路選択について調べたことはありましたか。

◯ あった　　◯ なかった

「あった」を選んだ方は、具体的に調べた内容についてご記入ください。（例：近隣の理系の大学の学部について調べた、等）

* 7.イベントに参加したことによって、お子様の行動や考えなどで、変化はありましたか。

◯ あった　　◯ なかった

「あった」を選んだ方は、具体的に変化があったと思う内容についてご記入ください。

* 8.将来、子どもを理工系分野に進ませることについて、不安がありますか。あてはまるものを全てお選びください。

- ☐ 子どもの学力
- ☐ 希望の大学や大学院に入るまでの勉強に係る費用（塾や予備校の費用、教材費等）
- ☐ 大学や大学院等の学費
- ☐ 理工系に女性が少ないこと
- ☐ 地元での就職口の少なさ
- ☐ 理工系の仕事のイメージがもてない
- ☐ 理工系の職場のワーク・ライフ・バランス
- ☐ その他
- ☐ 不安は特にない

「その他」の内容について具体的にご記入ください。

9.お子さまの進路選択に関する情報収集等のために、イベントの場などで聴いてみたい話のテーマ、子どもに体験させたい実験等についてご記入ください。

アンケートへのご協力ありがとうございました。
本アンケートの回答にご協力いただいた方には後日「理工チャレンジ（リコチャレ）」イメージキャラクター　リコちゃんのオリジナルクリアファイル（非売品）をプレゼントさせていただきます。
（1月以降発送予定）

ご希望される方は、発送先の住所についてご記入ください。
※ご来場いただいたご家族複数名にアンケートにご協力いただいた場合、ご回答人数分のクリアファイルをまとめてお送りさせていただく場合がありますので、ご了承ください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。「完了」を選択し、アンケートを送信してください。